

「長崎まちづくりのグランドデザイン2050」策定の歩み（素案）

～「みらいの長崎」をみんなで作ろう！～

-Index-

- Chapter 1 長崎まちづくりのランドデザイン2050について（補足）
- Chapter 2 現状整理
- Chapter 3 長崎市のまちの可能性とまちづくりの考え方
- Chapter 4 みらいの長崎に向けたまちづくり
- Chapter 5 策定経過
- Chapter 6 用語集

Ch.1	長崎まちづくりのランドデザイン2050について（補足）
Ch.2	現状整理
Ch.3	長崎市のまちの可能性とまちづくりの考え方
Ch.4	みらいの長崎に向けたまちづくり
Ch.5	策定経過
Ch.6	用語集

Chapter 1 長崎まちづくりのランドデザイン2050について（補足）

第1章では、ランドデザインと他の計画との関係性や検討プロセスなど、ランドデザインの概要（本編補足）について説明します。

1 グランドデザインと他の計画との関係性

長崎市第五次総合計画
（計画期間：2022年度～2030年度）

- 市政全般を網羅した市政運営上の最上位計画。
- 「めざす都市像」や「めざす2030年の姿」を掲げるとともに、その実現に向けた基本的な姿勢や道筋を示すとともに、各施策の取り組み方針や具体的な事業計画も示す。

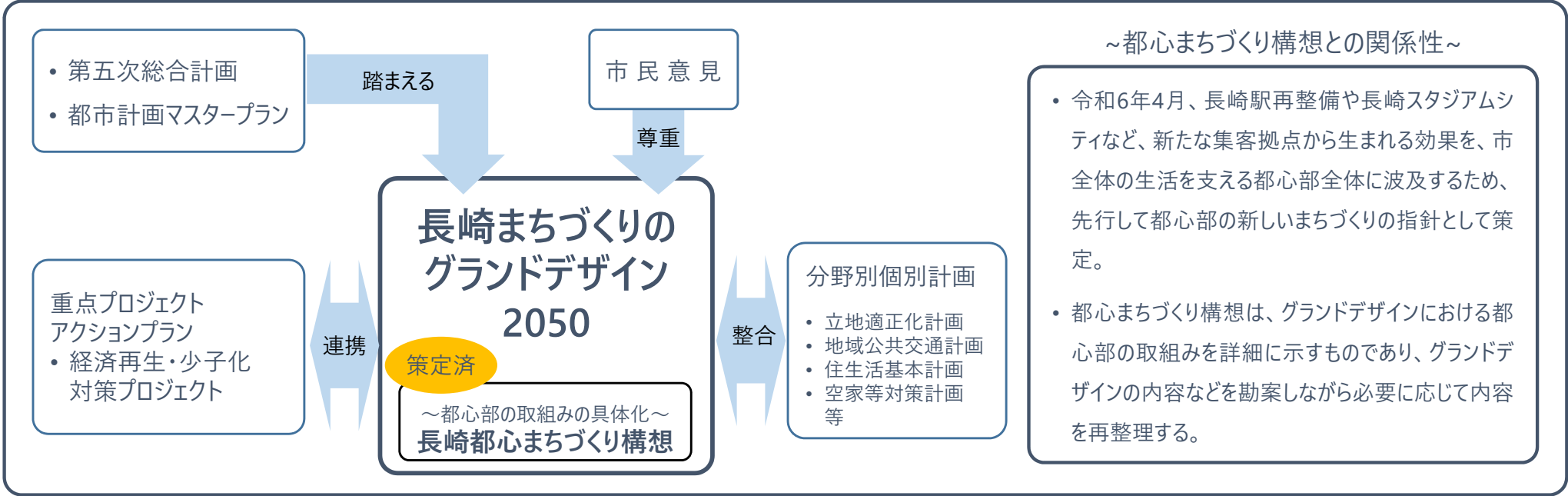
長崎市都市計画マスタープラン
（計画期間：2016年度～2035年度）

- 都市計画法に基づき策定する、市町村の都市計画に関する基本的な方針。
- 「めざす都市像」の実現に向けた都市づくりの指針。
- 人口減少化においても持続可能な将来都市構造や、市全体の都市づくりの方向性や地域・地区の方向性を示す。

長崎まちづくりのグランドデザイン2050
（計画期間：2025年度（予定）～2050年度）

- 総合計画や都市計画マスタープランに基づきながら、様々な関係者との連携・協働によるまちづくりを具体的に進めるため、経済再生と定住促進に特化した長期的なまちづくりの方向性を共有するとともに、関係者の方々がまちづくりの取り組みをイメージしやすいようまとめたもの。

～グランドデザインの位置付け～

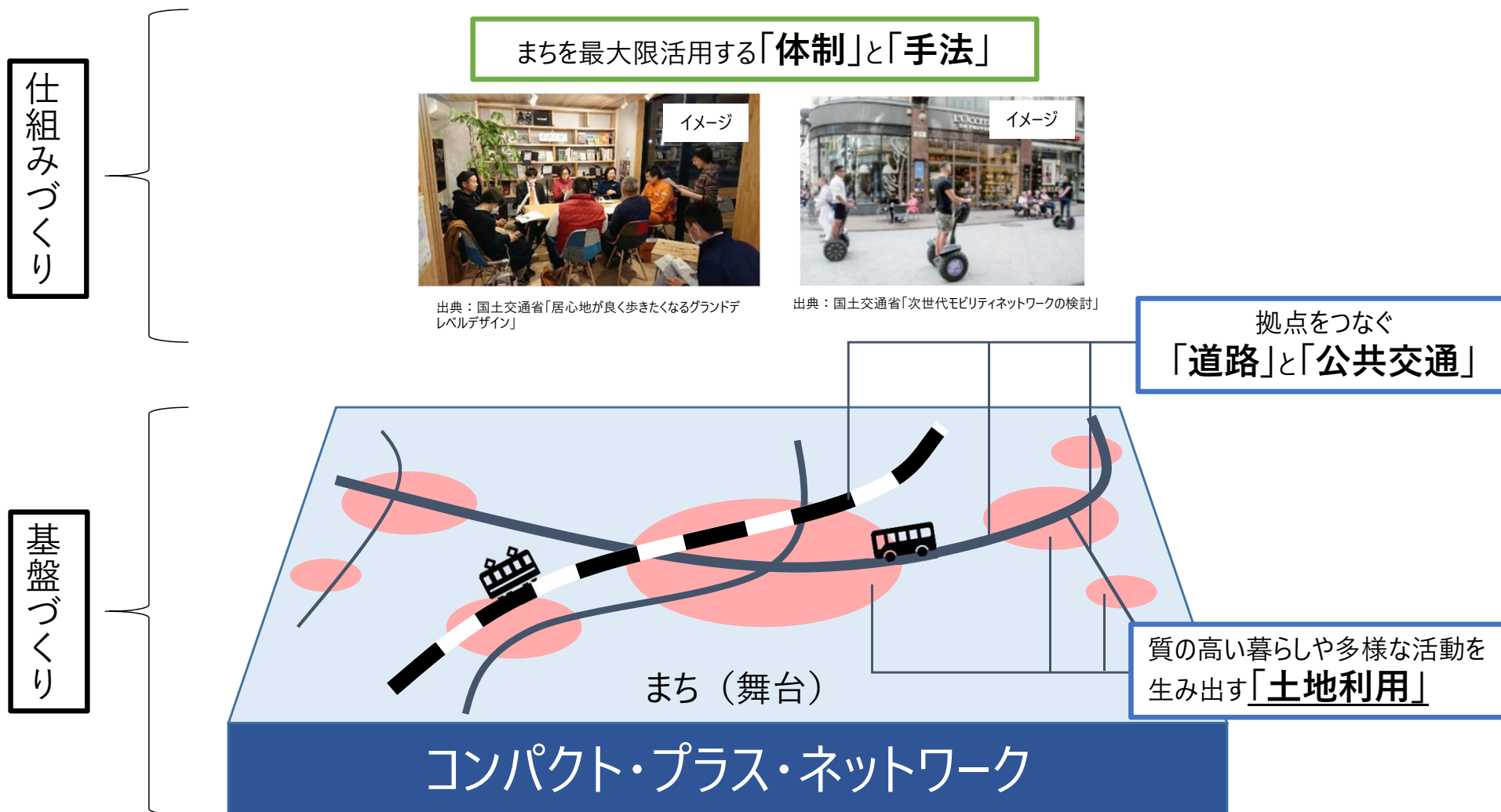


2 グランドデザインの目標年次

- まちづくりの概成時期を考慮し、目標年次を「2050年」とします。
- なお、人口減少対策は喫緊の課題であることから、スピード感を持って短期的な施策と中長期的な取組みを着実に推進します。

長崎市の都心部・臨海部の構想である「ナガサキ・アーバン・ルネッサンス構想」が、1986年策定から概成するまでにおよそ30年から40年の期間を要していることなどを参考に設定しています。

3 「基盤づくり」と「仕組みづくり」から取組みを展開



4 グランドデザインの検討プロセス

STEP
1

現状整理

- エリアの視点…………… A 都心部 B 地域拠点・生活地区 C 斜面市街地
- ネットワークの視点……… D 都心部と周辺部のつながり E 広域連携

STEP
2

長崎市全体を俯瞰し、**長崎市のまちの可能性**を把握

STEP
3

長崎市全体の**まちづくりの理念**を設定

STEP
4

A～Eの視点ごとに**まちづくりの理念**を設定

STEP
5

現状・問題点のギャップから**まちづくりの方針**を設定

Chapter 2 現状整理

この章では、各テーマの現状や本市のまちづくりに関連する主な取組みを整理します。

A 都心部……………P9

B 地域拠点・生活地区……………P12

中央地域 …… P14

北部地域 …… P15

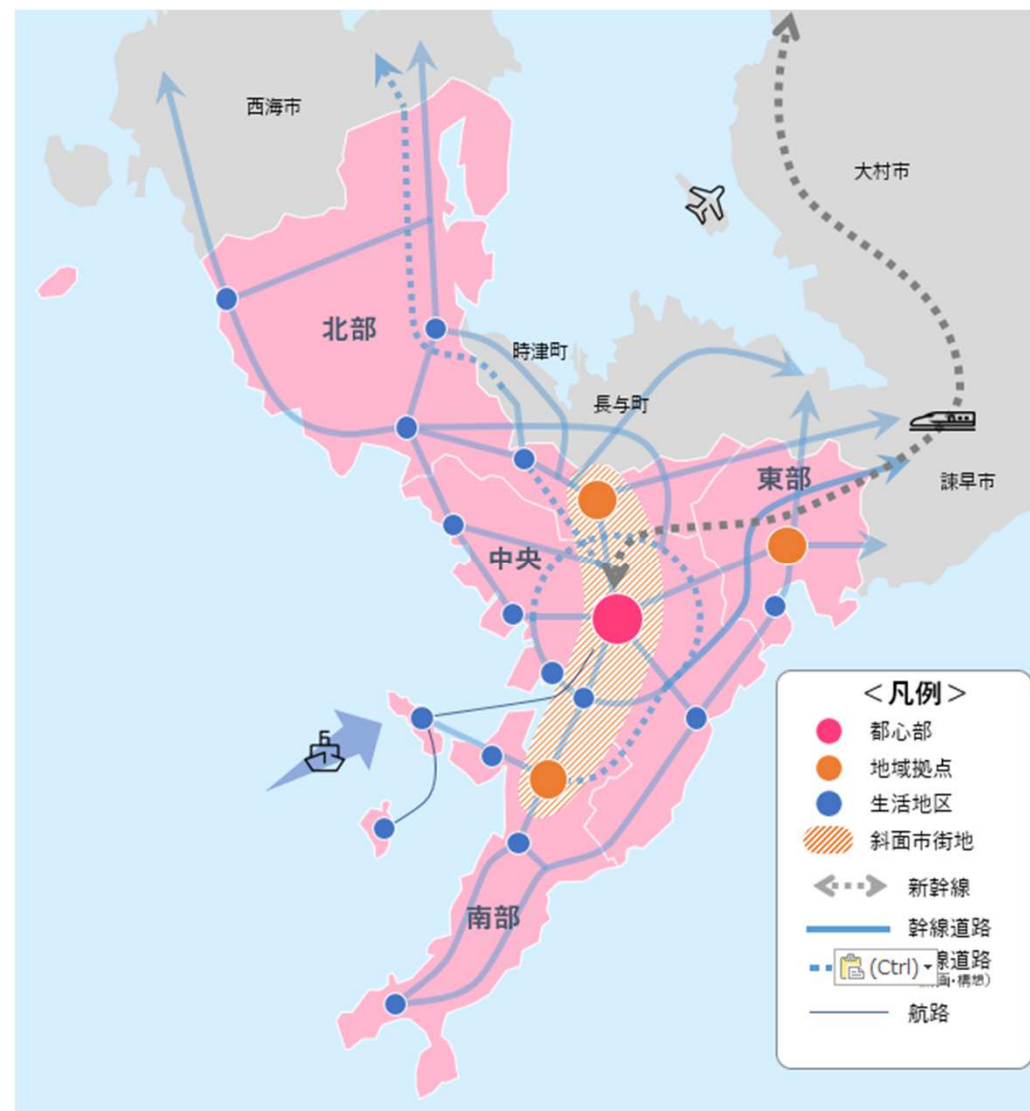
東部地域 …… P16

南部地域 …… P17

C 斜面市街地……………P18

D 都心部と周辺部のつながり……………P20

E 広域連携……………P21



A 都心部

概況

高次な都市機能が集積

高いレベルの商業・業務・行政・福祉などの都市機能が集積し、市全体をけん引する役割を担う地域

陸・海の玄関口

陸の玄関口である長崎駅、海の玄関口である松が枝国際観光船埠頭や長崎港ターミナルを有す一大集客拠点

長崎市の沿革・歴史を代表し、国際色豊か

多くの歴史・文化遺産が点在する国際色豊かなまちなみで、多くの外国人観光客が訪れる

100年に一度のまちづくり

出島メッセ長崎、九州新幹線西九州ルート、長崎スタジアムシティの開業や長崎駅周辺再整備、松が枝国際観光船埠頭2バース化など、100年に一度と称されるまちづくりが進行

～市民の声～

商業・賑わい

- 駅前で賑わいが生まれている
- 商業施設など楽しめる場所が増えた
- 雰囲気の良いお店が多い
- 歩いて楽しく、徒歩で日常生活は事足りる

国際性、交流

- 国際交流拠点になり得る
- 海外との接点が多い
- 色々な人に出会える
- スポーツの力で県外からたくさんの人々が訪れている

自然・景観

- 海・山が近く、景色がいい
- 立体的なまちなみが面白い
- 路地が魅力的

観光、歴史・文化

- 観光資源が多い
- 観光に適したまち
- 歴史的建造物が多く残っている
- 歴史文化がつまった場所
- 文化が多様
- 祭りの準備がすごい

公共交通

- バスの本数が多い、路面電車での移動も便利

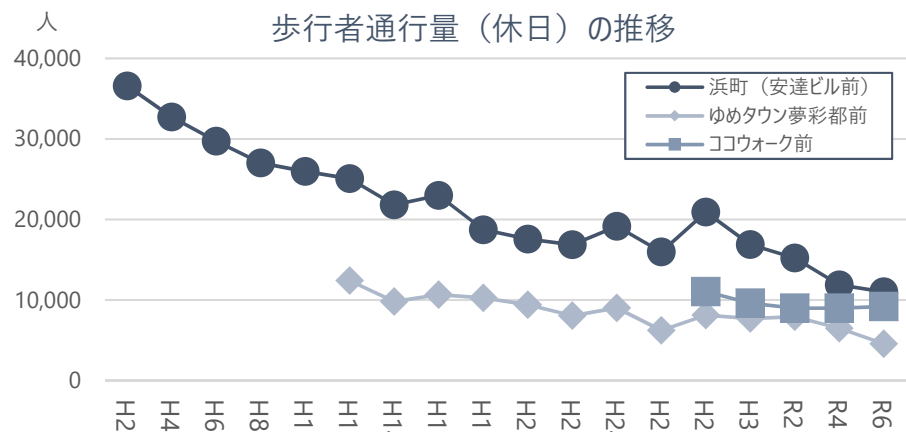


A 都心部

現況分析

● 歩行者通行量

- 歩行者通行量は減少傾向



出典：長崎商工会議所「歩行者通行量調査集計報告書」

● 15分以上滞在割合

- 令和元（2019）年と令和6（2024）年の15分以上滞在割合※を比較すると、長崎駅周辺のみ増加

15分以上滞在割合の比較（2024年と2019年の差分）

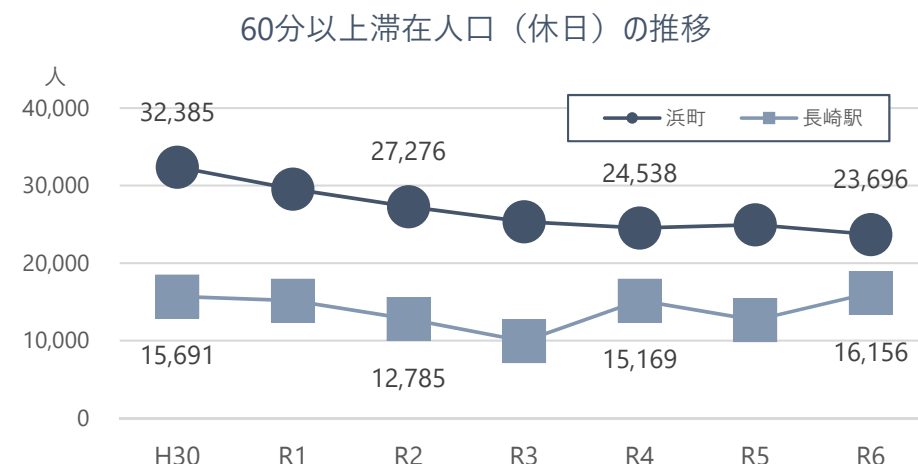
エリア	休日
長崎駅周辺	+ 1.3 %
浜町周辺	▲ 3.9 %
長崎港周辺	▲ 2.9 %
浦上駅周辺	▲ 1.8 %

※エリア内に15分以上滞在した回数÷都心部内に15分以上滞在した回数

出典：GEOTRA Activity Date

● 60分以上滞在人口

- 60分以上滞在した人口は、長崎駅周辺は増加傾向、浜町周辺は減少傾向



出典：KDDI Location Analyzer

● 空き店舗

- まちなかでは空き店舗が増加傾向



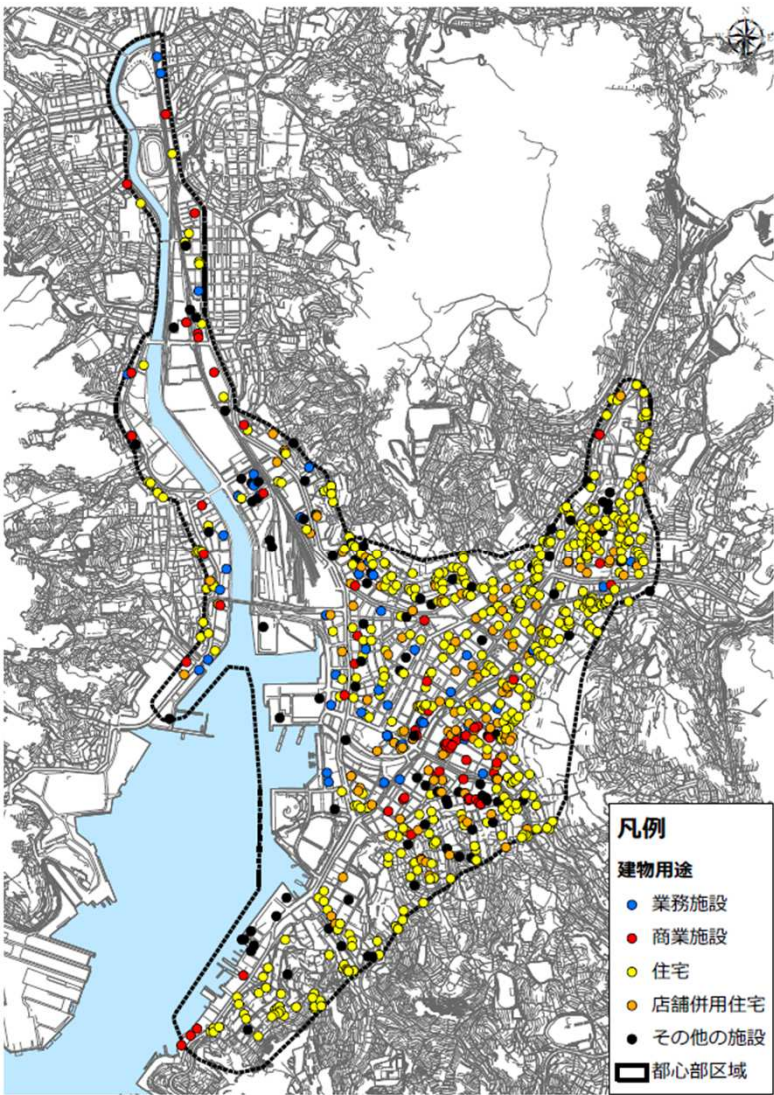
出典：長崎市「独自調査」

A 都心部

現況分析

- 建物用途
 - ・ 建物用途は、商業業務系から「住居系」に転換

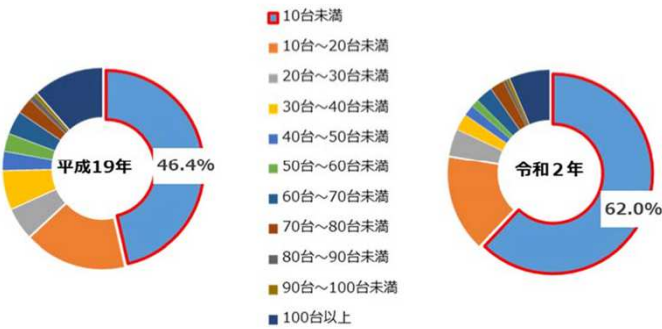
平成18（2006）年以降に建築された建物用途



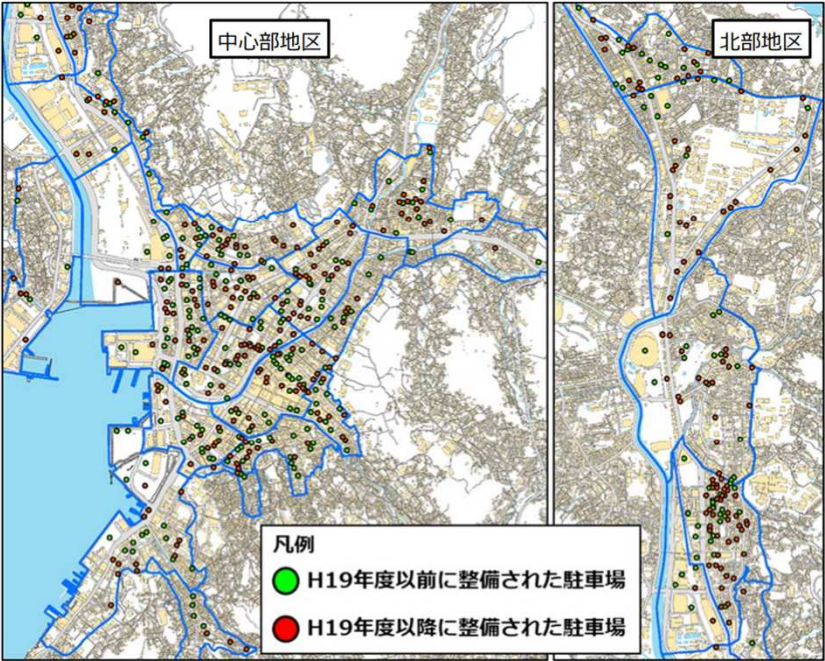
出典：長崎市「都市計画基礎調査」

- 駐車場
 - ・ 小規模駐車場の増加と駐車場の散在が進む

駐車可能台数別の駐車場数の割合



駐車場の配置状況



出典：長崎市「駐車場整備計画」

～市民の声～

文化・交流活動の場

●人が自然と集う場所が少ない●文化・芸術を共有・披露する場が少ない●音楽、アート、創作活動などを気軽に表現できる場が少ない●若者が遊ぶ場所が少ない

商業活性化、賑わい

●浜町のお店が大型商業施設に移転●シャッターを閉めているお店が増加●路面店が減少●浜町に行かなくなった

交通・アクセス

●駐車場が少なく、浜町に買い物行くのには不便●長崎駅から2次交通の案内が非常に分かりづらい●駅周辺からまちなかへの回遊性に課題がある

住環境、景観

●家賃が高く、都心に住める場所が少ない●平地にマンションが建ちすぎて、味気ない風景になっている●街並みが壊れ統一感がない●古い建物、歴史的価値が高い建物を残す取組みが不十分

公園・憩いの空間

●屋根がある公園がない●公園に桜が少ない●浜町に憩いの広場がない

歩行環境、バリアフリー

●歩道が狭く、路面が凸凹で歩きづらい●ベビーカーや車いす利用者に優しくない●歩行者が休憩できる場所が少ない●街路樹などの自然が少ない

B 地域拠点・生活地区

概 況

旧町村の役場などを中心に都市機能が集積

長崎市は、周辺町村との合併を繰り返して現在のまちが成り立っており、旧町村の役場などを中心に商業、医療などの都市機能が集積されてきた

豊かな自然環境

海・山・川など豊かな自然環境に恵まれた地区が多い

世界遺産構成資産が点在

明治日本の産業革命遺産、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を構成する資産が点在

～市民の声～

生活利便性・都市機能

- 地域拠点はお店や病院、学校があっ
て便利●地域拠点は施設がなんでも
揃っていて便利

観光・地域資源

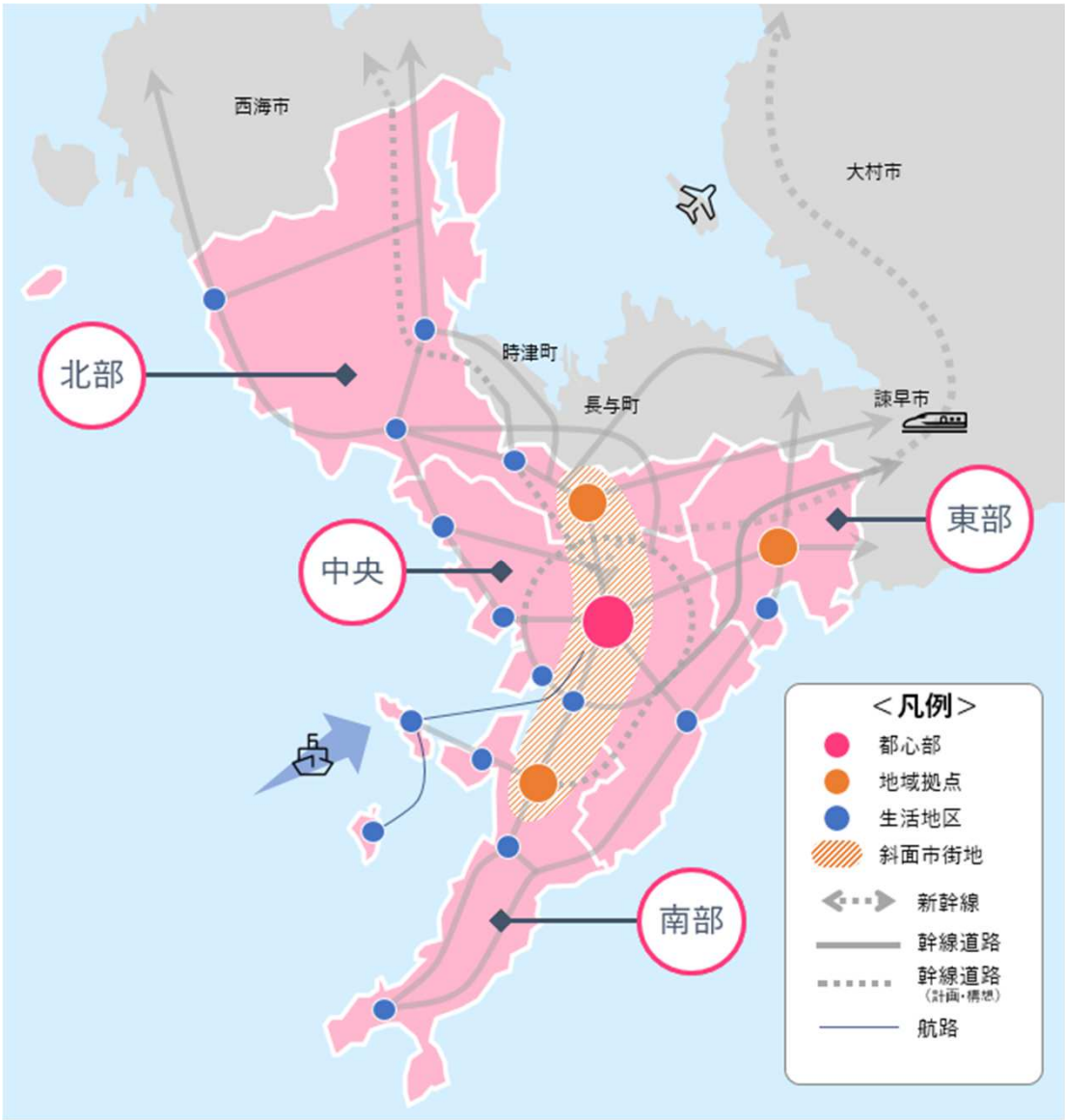
- 恐竜博物館やリゾート施設などの観
光地もある●都心部にはない魅力があ
る●野母崎や茂木地区など、同じ長崎
市とは思えないほど異なった魅力がある

自然・環境資源

- 自然豊かで海がきれい●自然を体験
ができるアクティビティがある●静かで住
むには良い環境

食

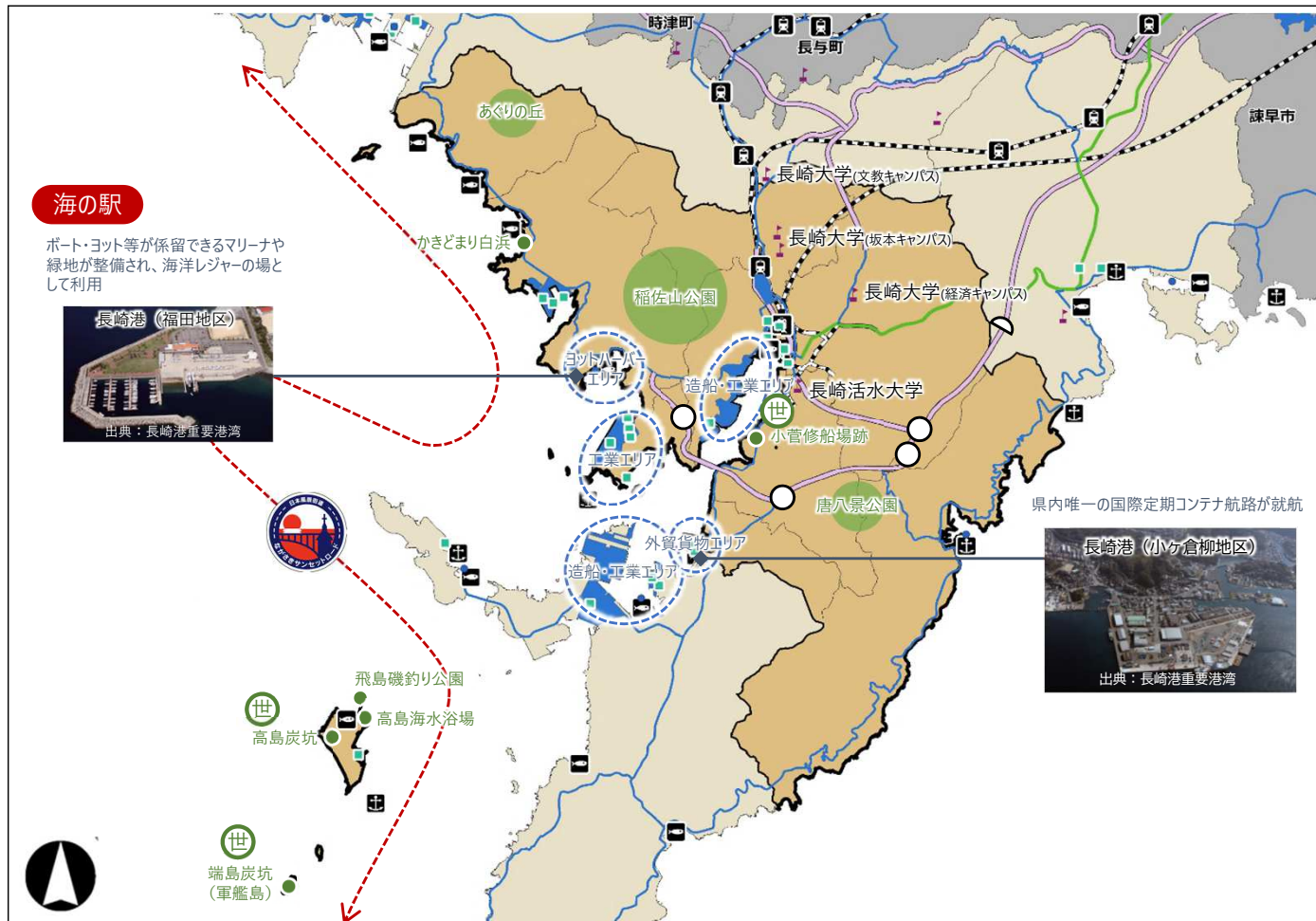
- 周辺部にも、様々な魅力的な食
（魚・農産物）がある



B 地域拠点・生活地区

概況

中央地域

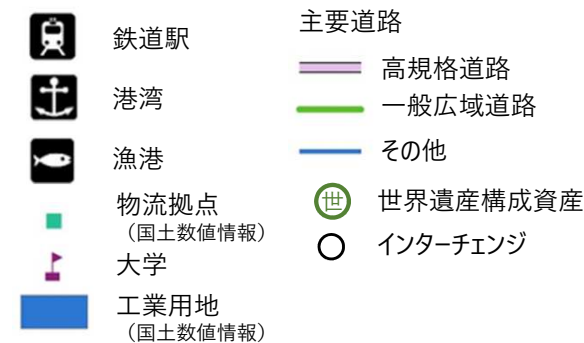


産業大分類別事業所数の特化係数（都心部除く）



出典：令和3年経済センサス

凡例



B 地域拠点・生活地区

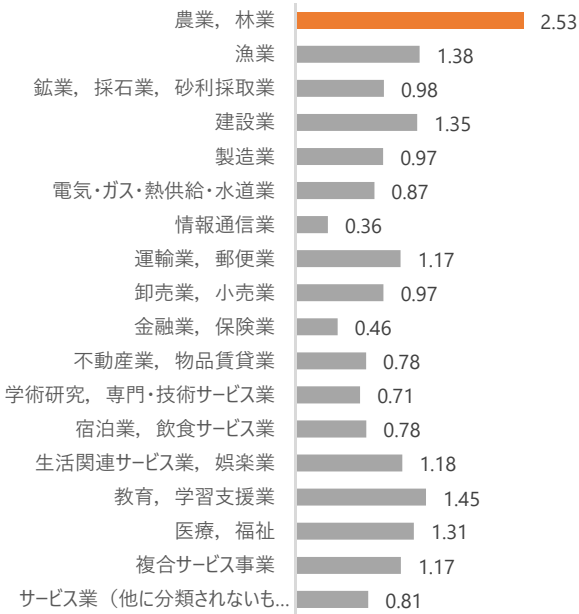
概況

北部地域



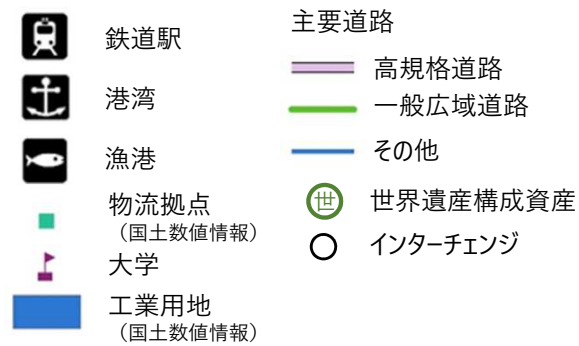
※：第3種漁港（利用範囲が全国的なもの）のうち水産業の振興上特に重要な漁港で政令で定めるもの。全国で13の漁港が指定。（R5.4現在）

産業大分類別事業所数の特化係数



出典：令和3年経済センサス

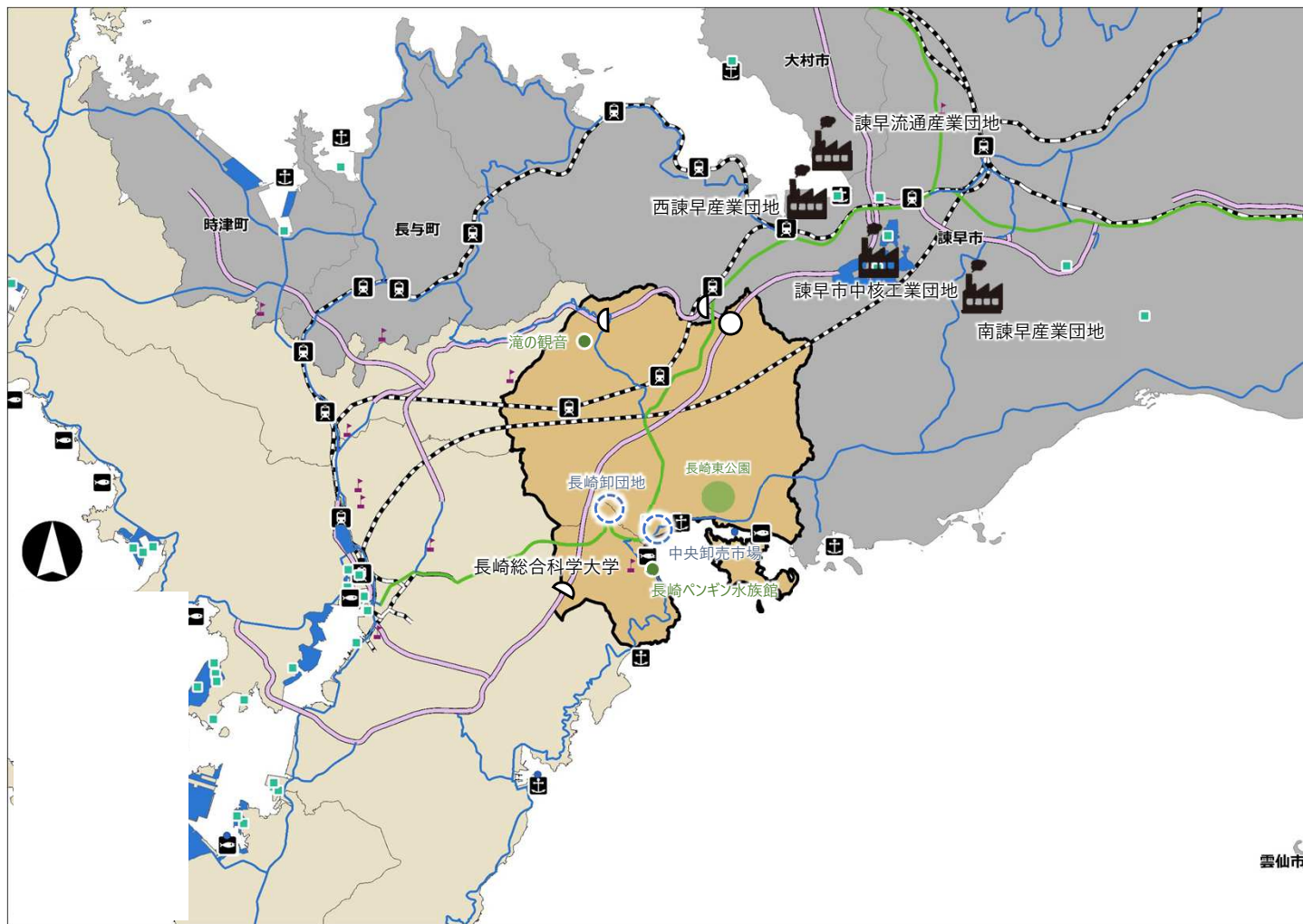
凡例



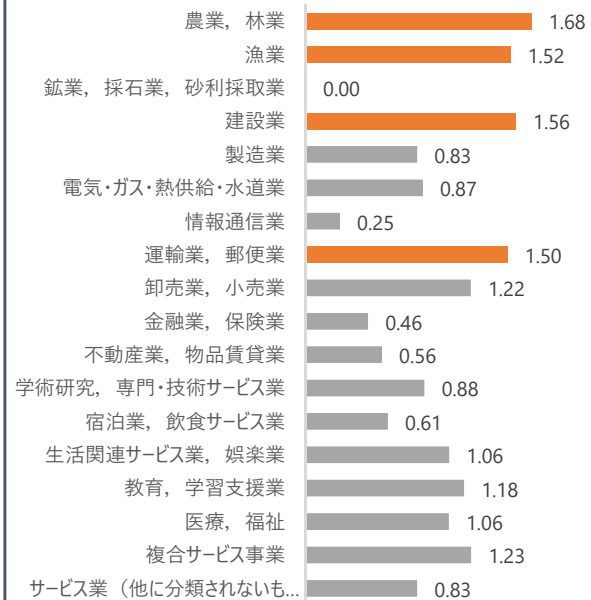
B 地域拠点・生活地区

概況

東部地域

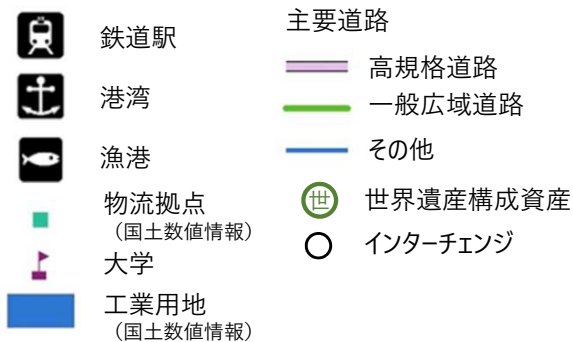


産業大分類別事業所数の特化係数



出典：令和3年経済センサス

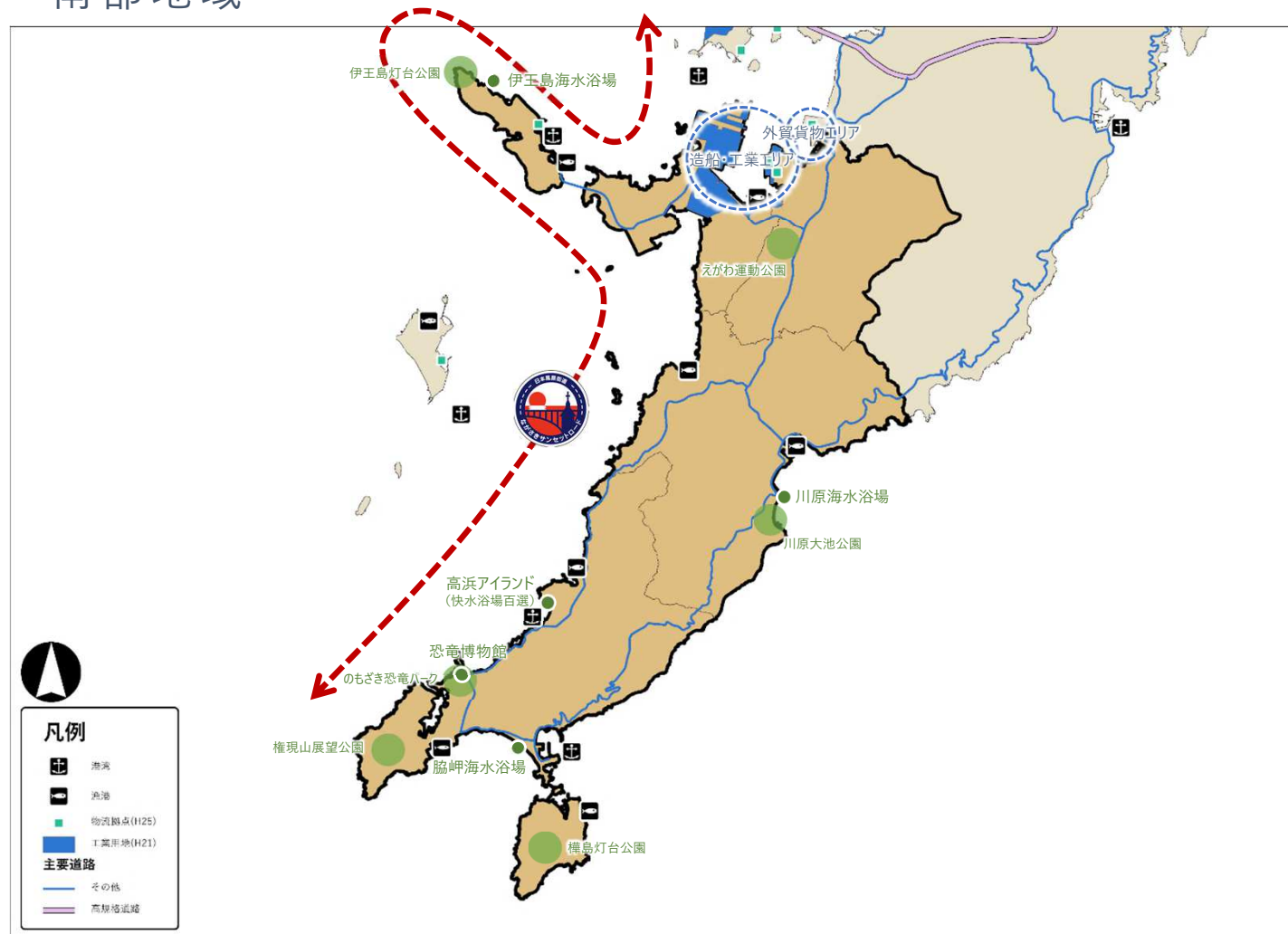
凡例



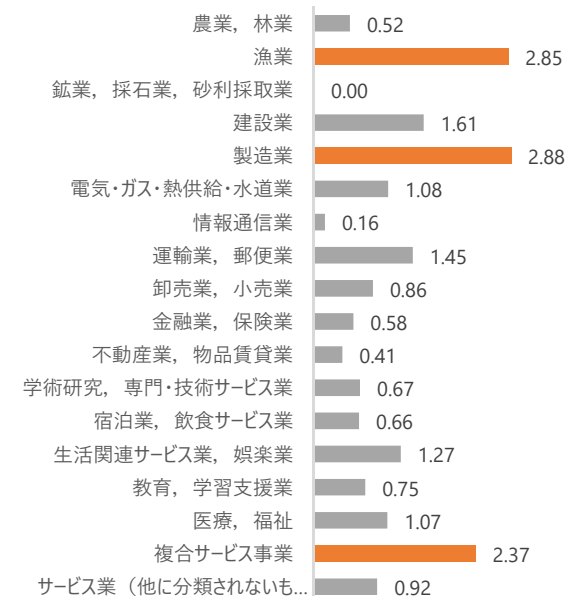
B 地域拠点・生活地区

概況

南部地域

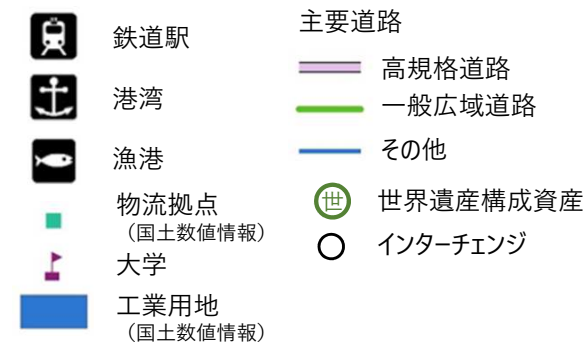


産業大分類別事業所数の特化係数



出典：令和3年経済センサス

凡例

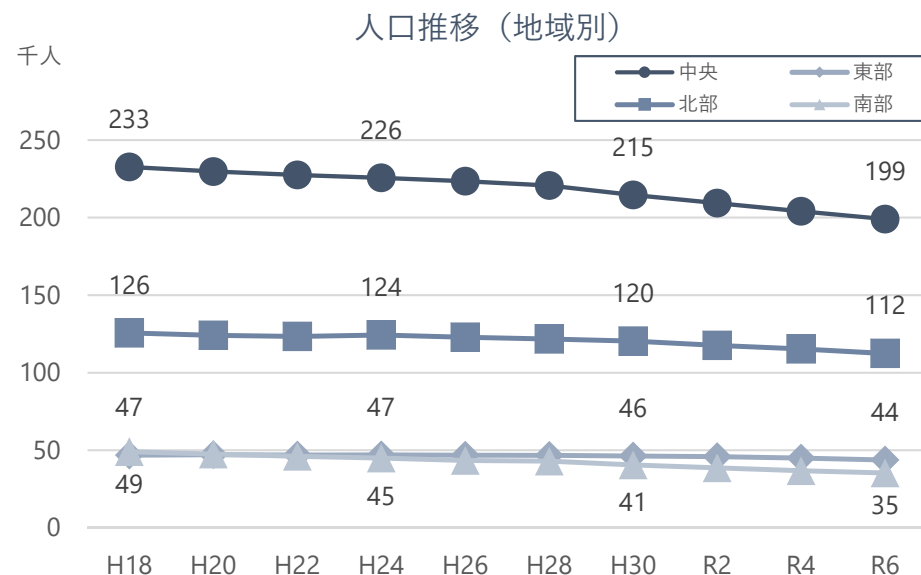


B 地域拠点・生活地区

現況分析

● 人口推移

- 各拠点の人口はいずれも減少傾向、特に南部地域の減少率大きい



地域	H18 (2006)	H24 (2012)		H30 (2018)		R6 (2024)	
	人口 (万人)	人口(万人)		人口(万人)		人口(万人)	
			増減率 ※(%)		増減率 ※(%)		増減率 ※(%)
中央	約23.3	約22.6	▲3.0	約21.5	▲7.7	約19.9	▲14.6
北部	約12.6	約12.4	▲1.6	約12.0	▲4.8	約11.2	▲11.1
東部	約4.7	約4.7	0.0	約4.6	▲2.1	約4.4	▲6.4
南部	約4.9	約4.5	▲8.2	約4.1	▲16.3	約3.5	▲28.6

※平成18年に対する増減率

出典：長崎市「住民基本台帳」

● 生活サービス関連事業所数の推移

- 各地域拠点内の生活サービスに関連する事業所数は減少傾向

事業所数の推移（各地域拠点）

地域	調査年	事業所数（事業所）				合計
		卸売業、 小売業	宿泊業、 飲食サービス業	生活関連サ- ビス業、娯楽 業	医療、福祉	
北部	H28 (2016)	378	194	141	164	877
	R3 (2021)	302	162	138	155	757
	増減数	▲76	▲32	▲3	▲9	▲120
東部	H28 (2016)	108	48	41	47	244
	R3 (2021)	97	36	39	40	212
	増減数	▲11	▲12	▲2	▲7	▲32
南部	H28 (2016)	74	24	25	27	150
	R3 (2021)	64	20	19	28	131
	増減数	▲10	▲4	▲6	1	▲19

出典：経済産業省「経済センサス」

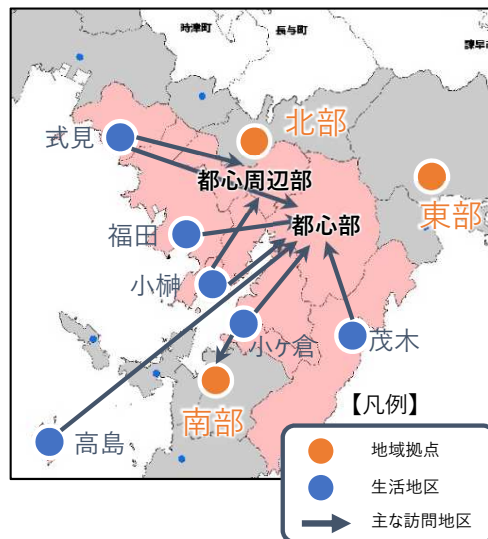
B 地域拠点・生活地区

現況分析

【生活地区居住者が買い物・通院等のために訪問する主な地区】

中央地域

- 主に、「都心部」で生活サービスを楽しむ



生活地区	主な訪問地区	
		到着割合※
式見	中央東部	13.6%
	中央北部	12.6%
福田	中央東部	17.4%
小桧	中央東部	18.5%
	中央北部	11.6%
小ヶ倉	中央東部	22.6%
	土井首＋深堀	16.4%
茂木	中央東部	27.0%
高島	中央東部	12.1%

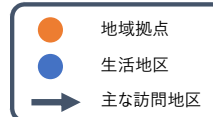
北部地域

- 主に、「三重地区」と「北部地域拠点」で生活サービスを楽しむ



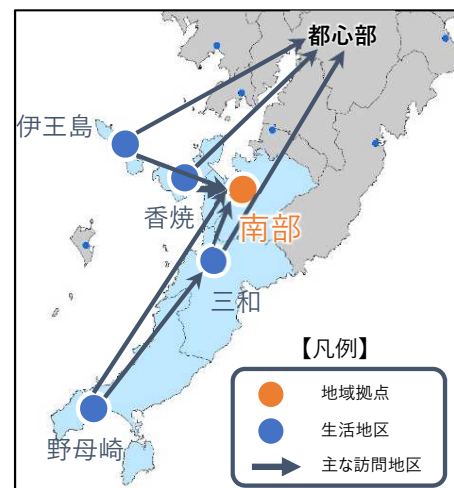
生活地区	主な訪問地区	
		到着割合※
滑石	西浦上	11.6%
	中央東部	10.4%
琴海	三重	14.3%
外海	三重	29.2%

【凡例】



南部地域

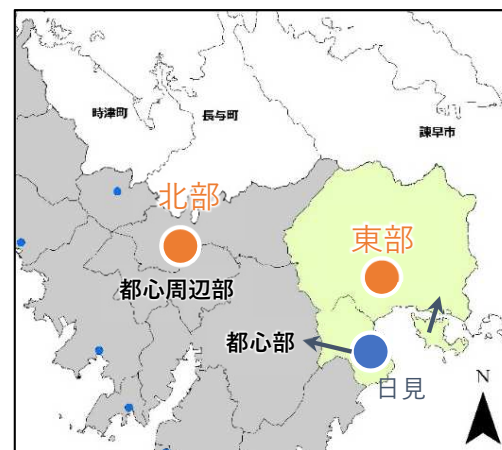
- 主に、「南部地域拠点」と「都心部」で生活サービスを楽しむ



生活地区	主な訪問地区	
		到着割合※
香焼	土井首＋深堀	30.7%
	中央東部	12.6%
伊王島	中央東部	17.5%
	土井首＋深堀	12.1%
三和	土井首＋深堀	22.6%
	中央東部	11.7%
野母崎	土井首＋深堀	15.4%
	三和	14.8%

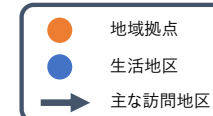
東部地域

- 主に、「東部地域拠点」と「都心部」で生活サービスを楽しむ



生活地区	主な訪問地区	
		到着割合※
日見	東長崎	30.7%
	中央東部	12.6%

【凡例】



出典：GEOTRA Activity Date

※買い物・通院等目的で訪問地区に滞在した回数÷買い物・通院等目的で市内に滞在した総回数。
到達割合が10%を超える地区を記載。

B 地域拠点・生活地区

現況分析

～ 市民の声 ～

商業・買い物環境

- 買い物が不便●個人経営の馴染みのお店が少なくなっている●自宅近くのお店がなくなり不便に●買い物難民問題が深刻

医療・福祉サービス

- 地域の救急医療の維持が懸念される●近くに病院がない

公園・レクリエーション施設

- 公園が小さい●遊具が少ない●日影がなく、夏は暑くて遊べない●ボール遊びやスケートボードなどができる場所がほしい●ニーズを反映できていない公園が多い●室内で遊べる場所がほしい●自然体験できる場がない

コミュニティ・交流拠点

- 住民が集まる場所がない●人とつながれる場所が少ない●保護者同士の交流の場が少ない●世代を超えて交流する場や機会がない

住環境・定住促進

- 若者が住みたいと思う住宅・土地が少ない●若い夫婦が住める環境が必要●移住者を受け入れるための住宅が不足している

防災・安全対策

- 避難所がない地区がある●避難所が遠い●土砂災害が多く、避難所への移動が心配

土地・施設の有効活用

- 遊休地が増えている●空き家が増えている●空き家の問い合わせはあるが、貸せる空き家がない●廃校舎や公有地を活用できていない●地域の特産品を販売できる場が少ない●漁港の良いところを活かせていない●耕作放棄地が増えた

交通・移動手段

- 坂道や階段が多く、移動が大変●免許返納後の移動が心配●車がないと生活できない●一人で外出できない高齢者が多い●ＪＲ駅までの移動手段がない

観光・地域資源活用

- 周辺部を観光したときに、目的地以外の観光・体験といった情報が得にくい●自然を生かしたレジャー施設がない●美しい自然や景観などが活用されていない●遊びに来てても日帰りになる

C 斜面市街地

概況

坂のまち長崎を象徴する場所

既成市街地の約 7 割を占める、坂のまち長崎を象徴する場所で、多くの市民が居住

眺望、静かな環境、日当たりの良さ

眺望や静かな環境、日当たりの良さなど、斜面市街地ならではの魅力がある

～市民の声～

自然環境、景観

●見晴らしが良く、静かな環境●海・山が近く、自然を身近に感じられる●景色が良いから住んでみたい●斜面地からの景色は観光資源として活用できる●斜面地からの景色を眺められる素敵なお店がある

地域特性

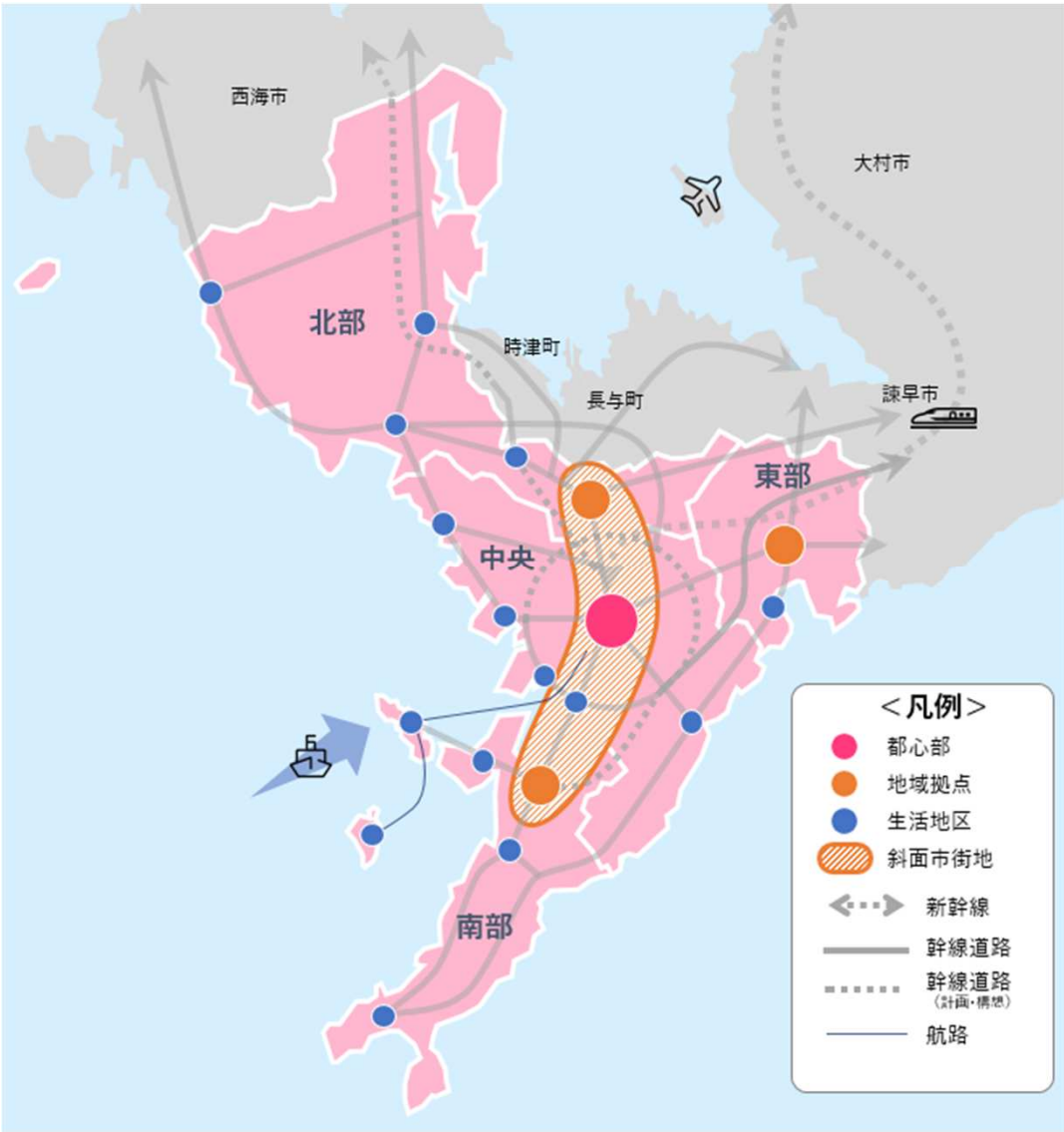
●坂が多いが健康維持につながる

交通・アクセス

●階段で移動する必要があるが、まちに近くて便利●路面電車の停留所に近く、少し歩けば色々なところへ行ける

コミュニティ

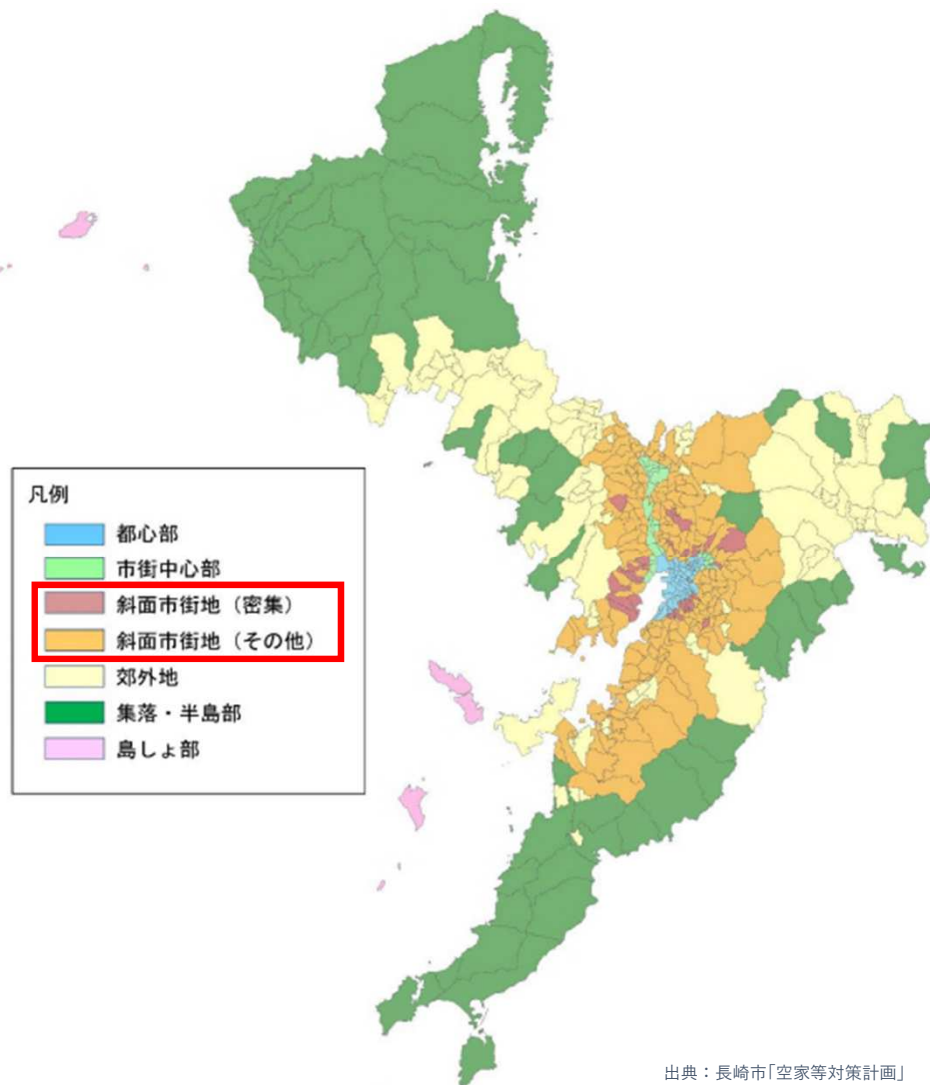
●住民同士の距離感が近い



C 斜面市街地

現況分析

【市街地類型別】



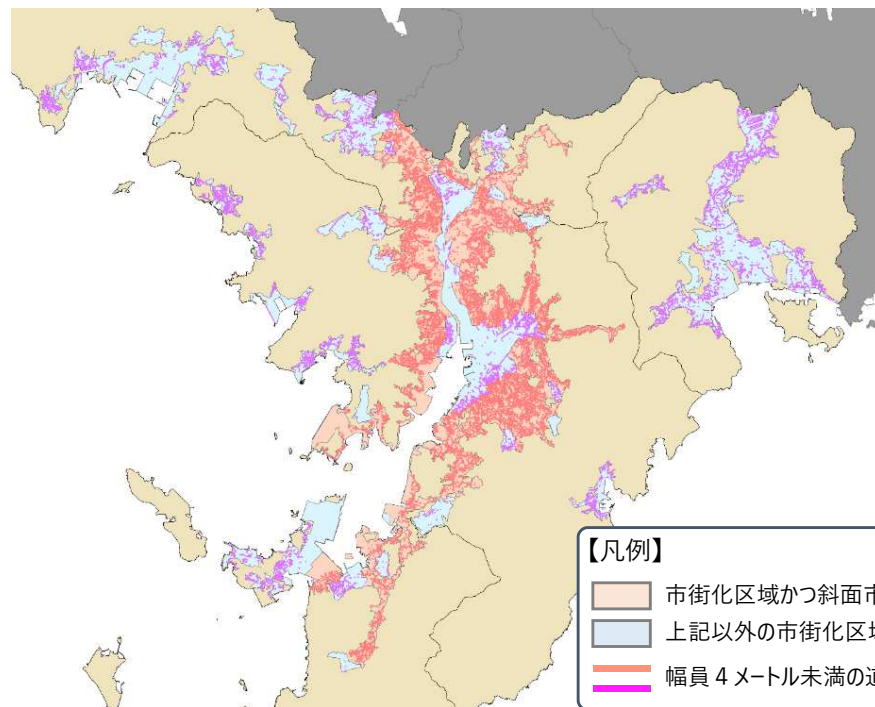
出典：長崎市「空家等対策計画」

● 幅員 4 メートル未満の道路延長

- 市街化区域かつ斜面市街地内の道路は、幅員 4 メートル未満の道路延長が占める割合が高い

道路幅員	市街化区域かつ斜面市街地		左記以外の市街化区域	
	道路延長 (km)	割合	道路延長 (km)	割合
1	約26	3.1%	約41	4.5%
2	約167	20.2%	約392	43.4%
3	約161	19.4%	約195	21.6%
4	約474	57.2%	約275	30.5%
合計	約828	100.0%	約903	100.0%

【幅員 4 メートル未満の道路状況】



C 斜面市街地

現況分析

● 空き家

- 多くの空き家が斜面市街地に存在

空き家の状況（市街地類型別）

市街地類型		総住宅数 (戸)	空き家		空き家発生率 (%)
			件数 (戸)	空き家総数に占める割合 (%)	
都心部		9,854	256	3.7	2.5
市街中心部		6,713	140	2.0	2.0
斜面市街地	密集	8,936	760	11.0	59.6
	その他	61,801	3,367	48.6	
郊外地		46,883	1,046	15.1	2.2
集落・半島部		18,393	1,160	16.7	6.3
島しょ部		786	200	2.9	25.4
総 数		153,366	6,929	100	4.5

出典：長崎市

● 空き地

- 建物数は減少しており、空き地が増加していることが想定される

建物数の推移

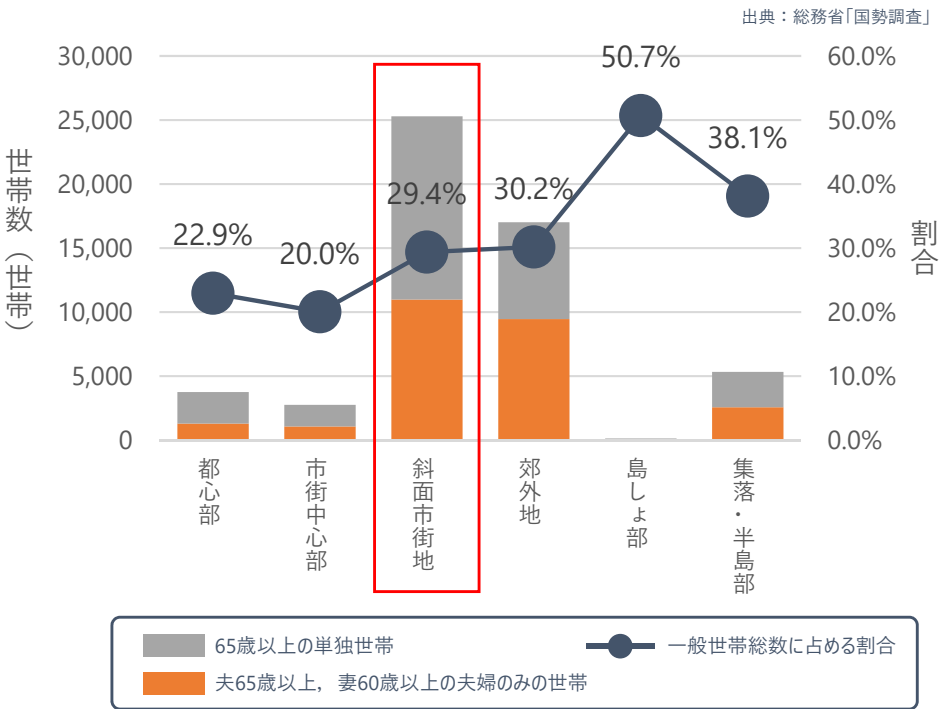
	平成26（2014）年	令和 3（2021）年
建物数	約 6.9 万件	約 6.5 万件

出典：長崎市「都市計画基礎調査」

● 高齢者世帯

- 多くの高齢者世帯が居住

高齢者世帯数の状況（令和 2（2020）年）



～ 市民の声 ～

商業・生活利便性

- 自宅近くで生活用品が手に入らない
- まちに降りないと買い物ができない
- 移動販売車のルートに偏りがある

住環境、景観

- 空き地・空き家が増加し、景観や治安が悪化
- 空き家はあるが住む家がない

移動・交通アクセス

- 坂や階段が多く、休憩場所も少ない
- 道が狭く、車が通れない
- とにかく移動が大変
- 外出を億劫に感じている人がいる
- 外出手段の確保が必要
- 駐車場がない

防災・安全対策

- 避難が難しい高齢者の支援が課題

D 都心部と周辺部のつながり

概況

集約連携型の都市構造を支える道路ネットワークの形成

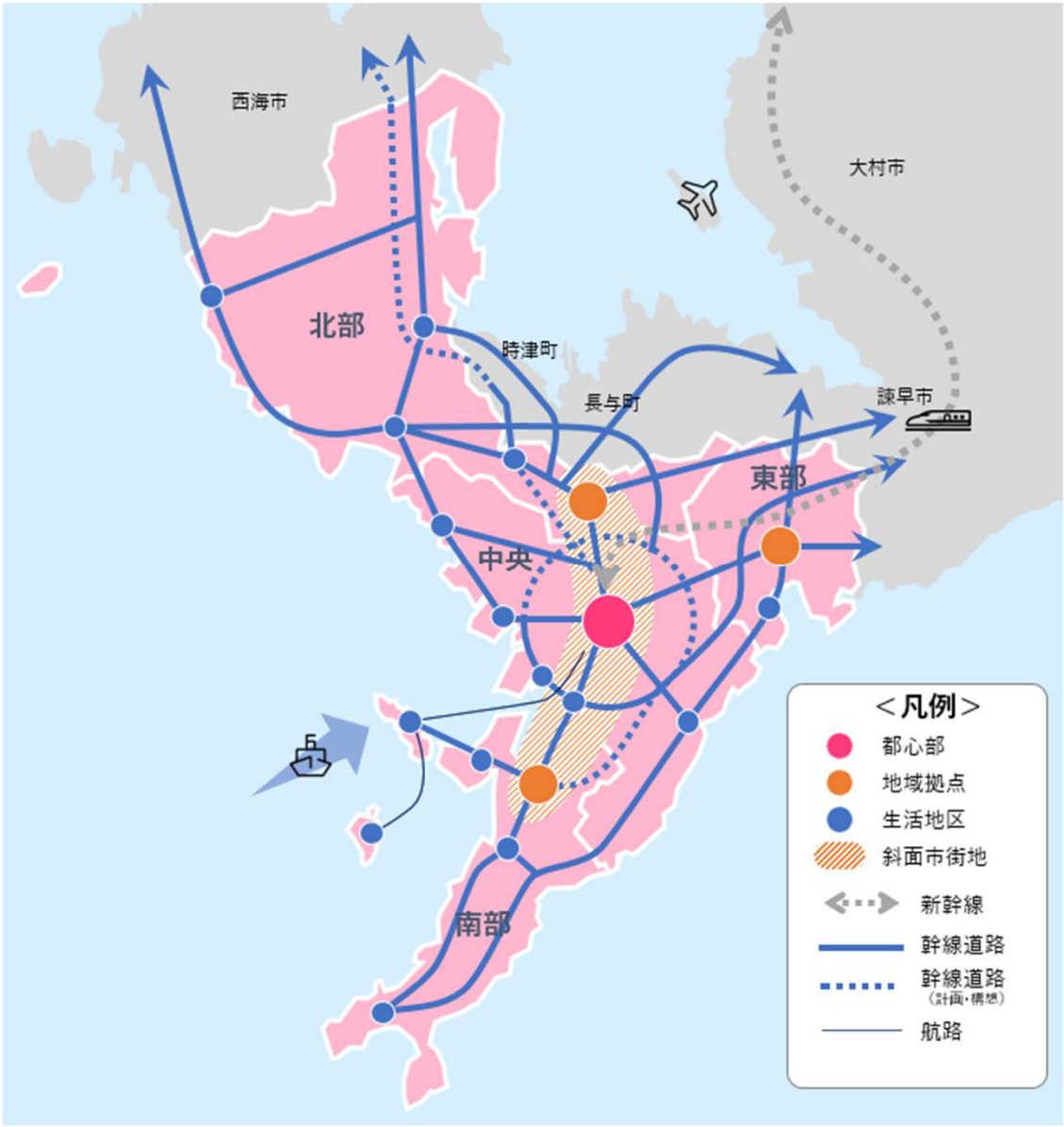
長崎市の幹線道路は、平坦地に路線が集中する一極集中型の道路網で、集約連携型の都市構造を支える道路ネットワークの形成を目指している。

公共交通路線の充実

長崎市全域の公共交通路線の徒歩圏人口カバー率※は80％で、全国平均を大きく上回る

光回線の充実

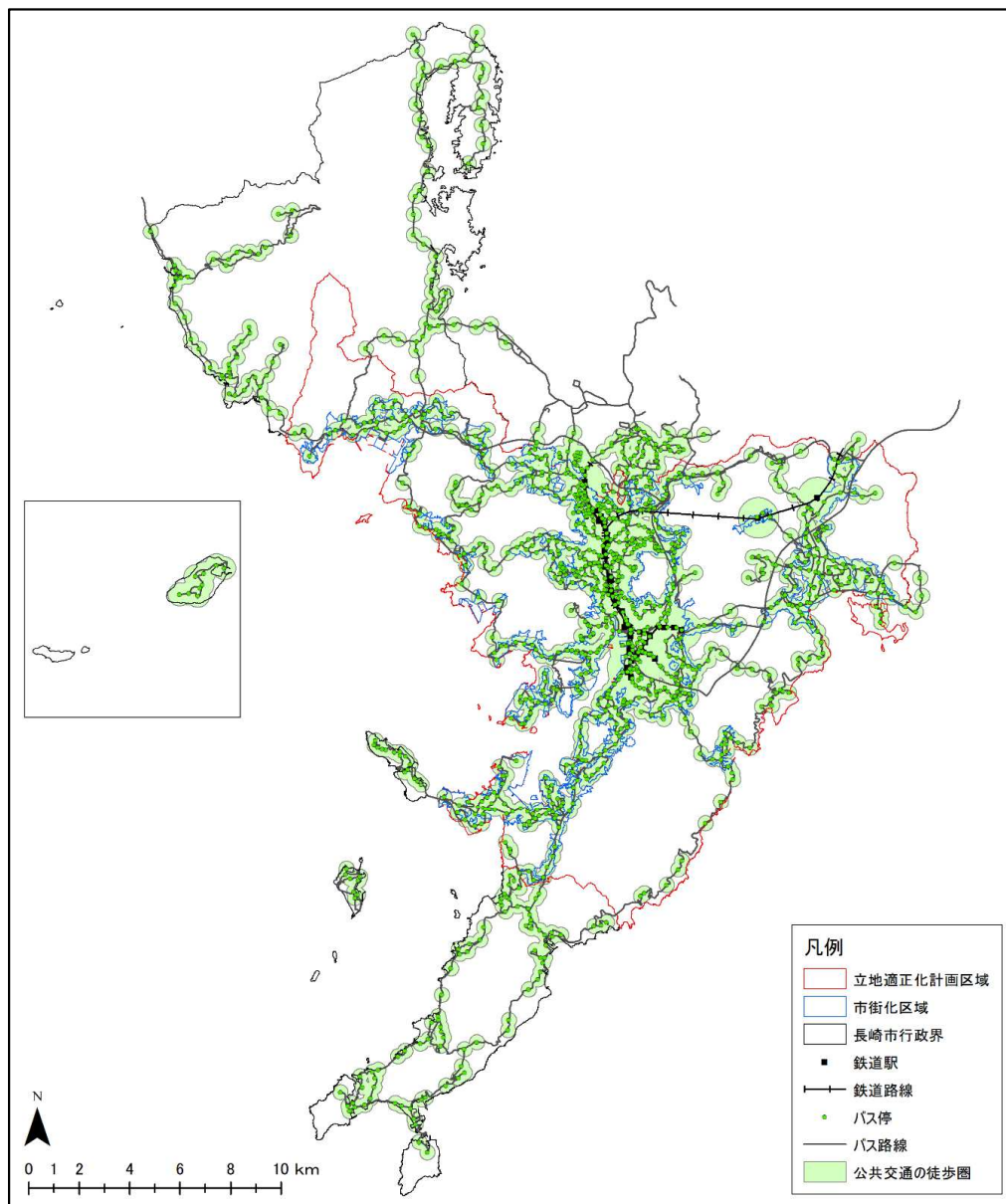
令和4年4月から、市内全域で大容量高速のデータ通信が利用可能



D 都心部と周辺部のつながり

現況分析

【公共交通の徒歩圏人口カバー率】



出典：長崎市「立地適正化計画」

● 公共交通徒歩圏人口カバー率

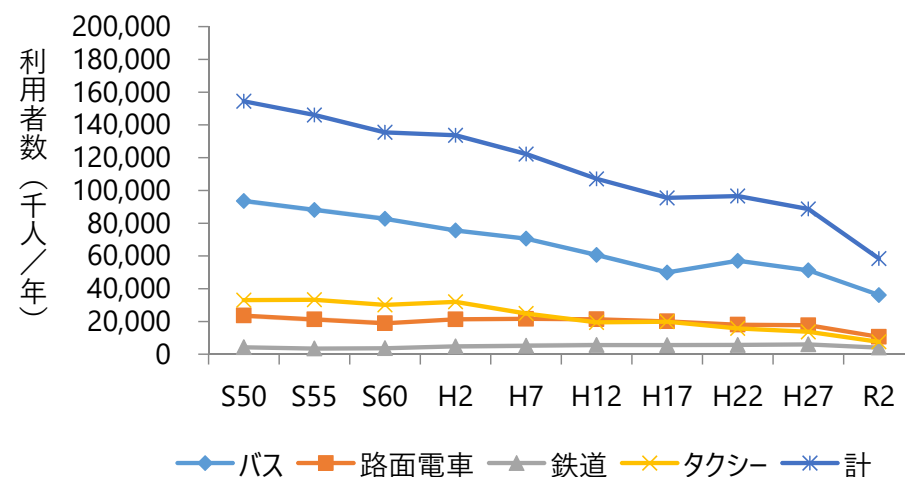
- 公共交通の徒歩圏人口カバー率は80%で、全国平均を大きく上回る

区 分		カバー率(%)
全国平均		41
地方都市圏	政令市	74
	概ね50万人	62
	概ね30万人	48
長崎市		80

出典：長崎市「立地適正化計画」

● 公共交通利用者数の推移

- 公共交通利用者数は減少傾向

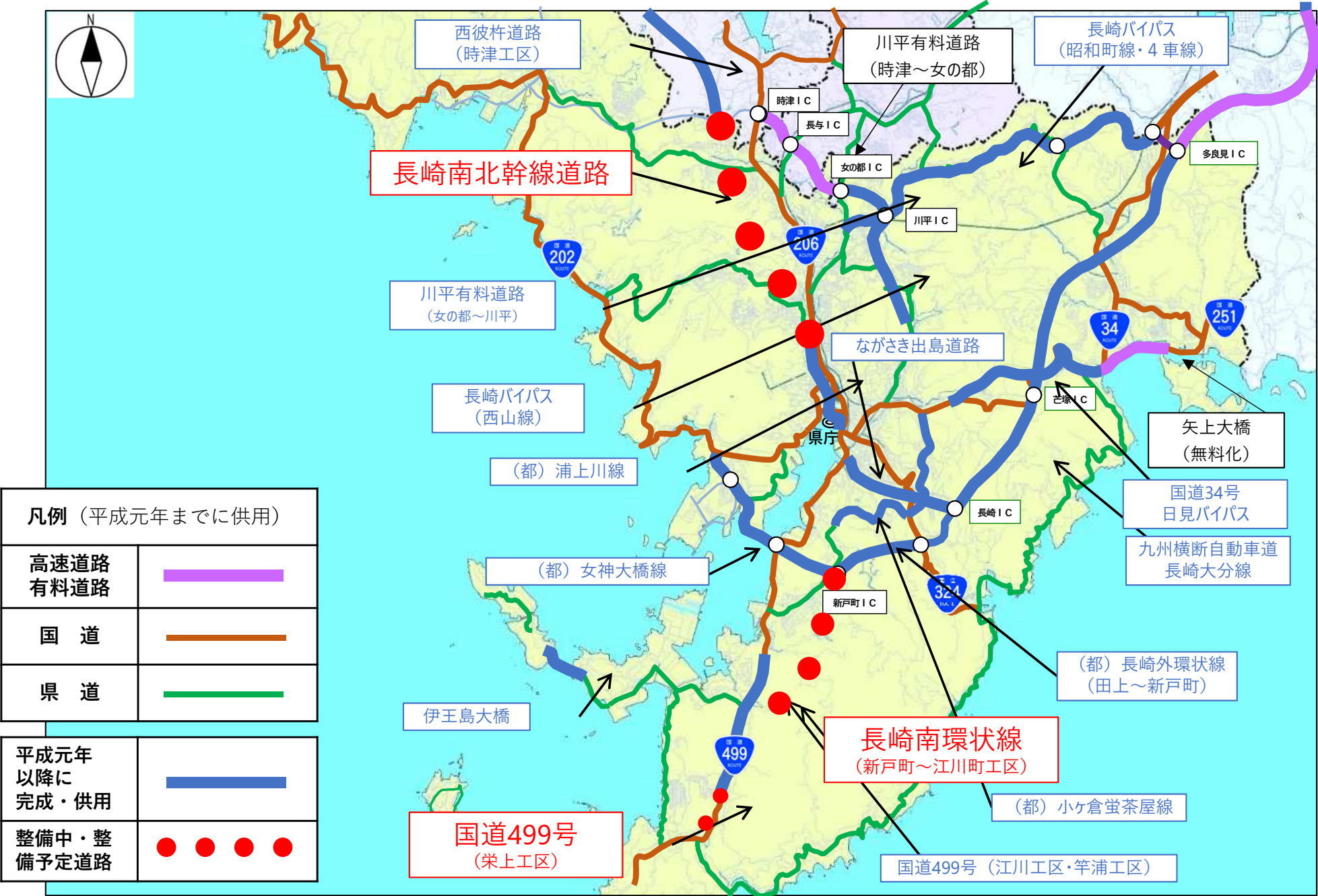


出典：長崎市「統計年鑑」

D 都心部と周辺部のつながり

現況分析

【幹線道路の整備状況】

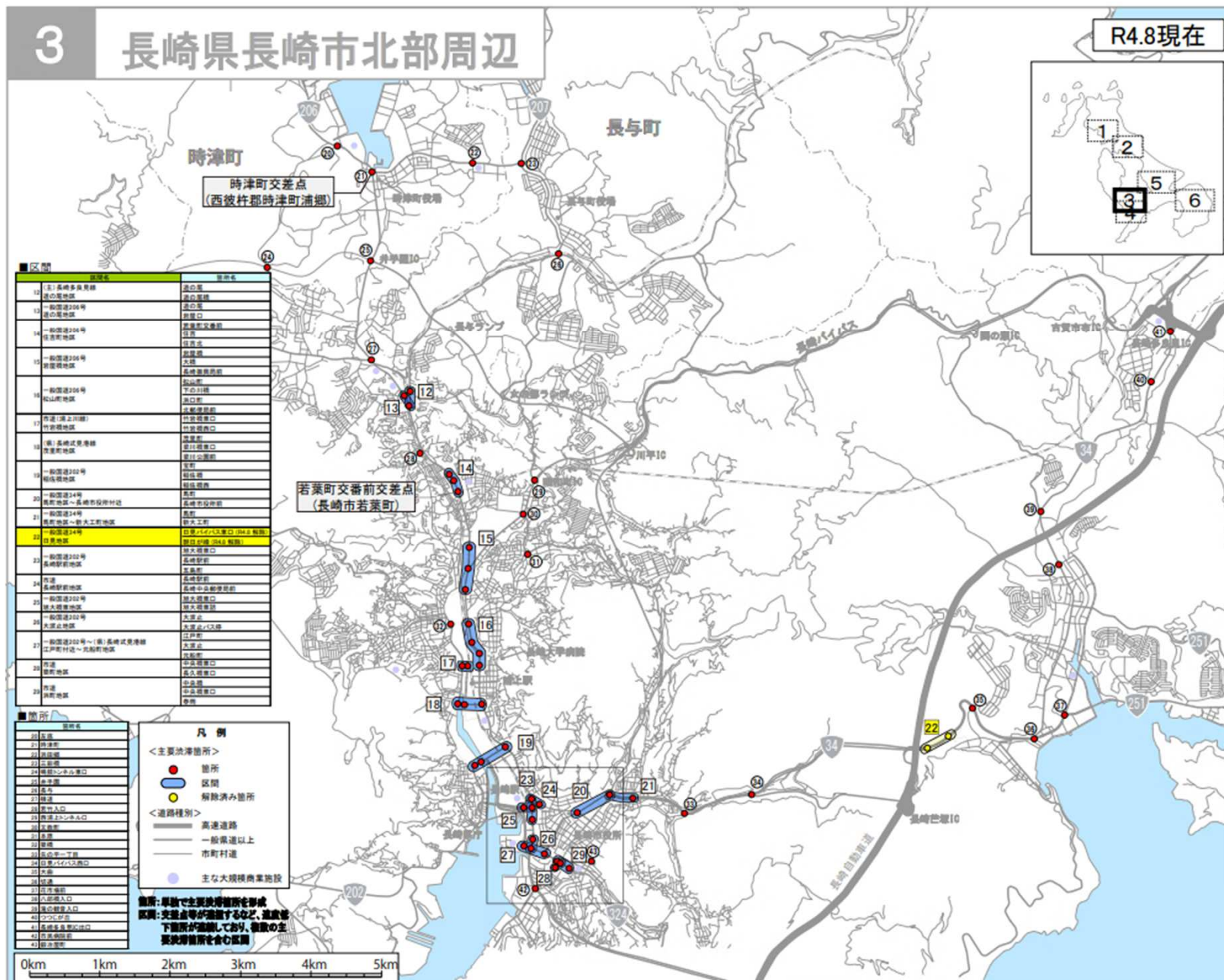


D 都心部と周辺部のつながり

現況分析

- 幹線道路網の整備は進んでいるが、依然として交通渋滞箇所が多い

【主要渋滞箇所】

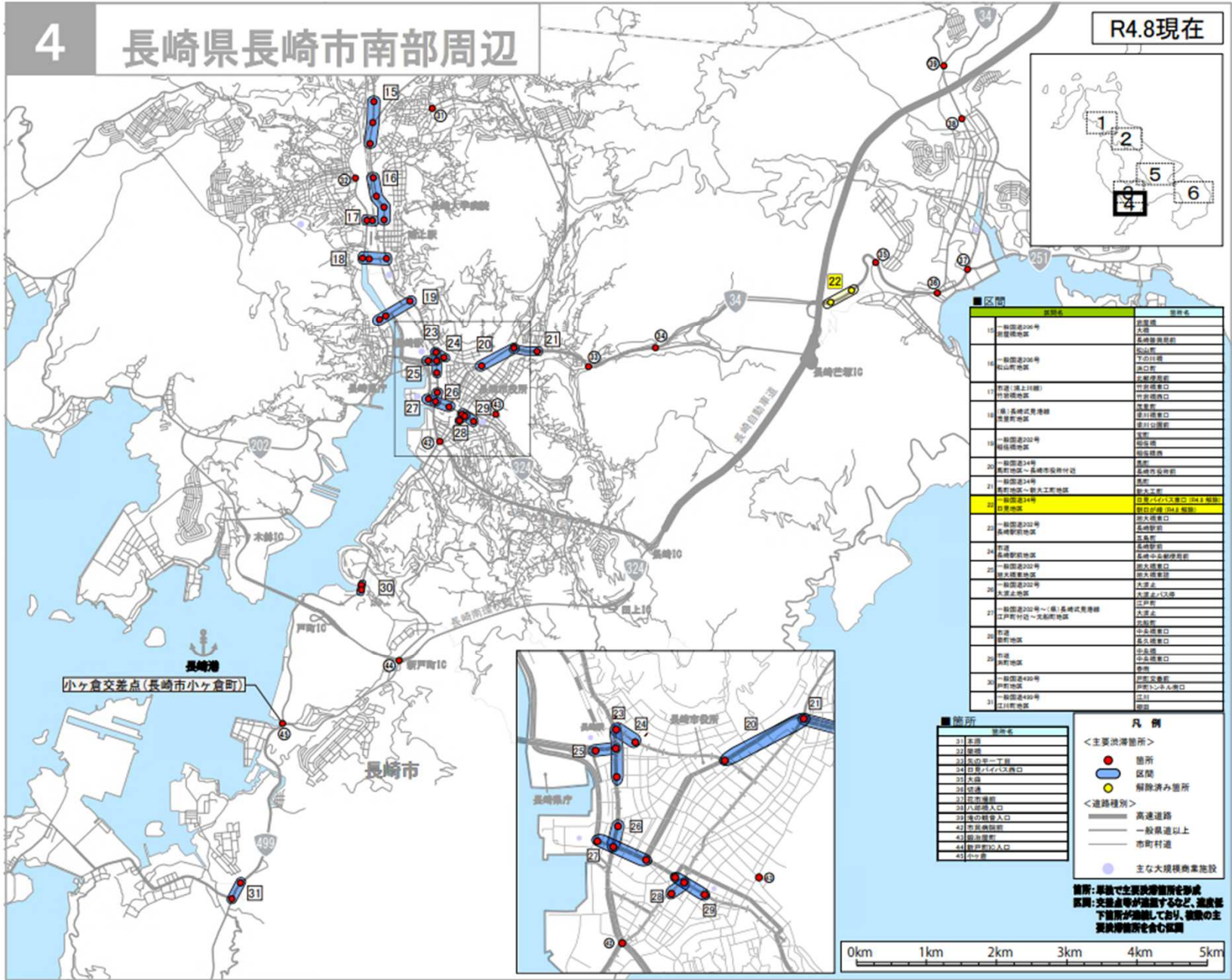


D 都心部と周辺部のつながり

現況分析

【主要渋滞箇所】

● 幹線道路網の整備は進んでいるが、依然として交通渋滞箇所が多い



出典：長崎県「地域の主要渋滞箇所」

D 都心部と周辺部のつながり

現状分析

～ 市民の声 ～

道 路 交 通

●交通渋滞がひどい●道路整備が進まない●交通渋滞で外出を控えてしまう●地域の活性化につながる道路網がない

路 線 バ ス の 利 便 性

●バスの便数が少なすぎる●バスの便数が減り、買い物や通院、通学が不便に●最終便が早い●バスの遅延時間や待ち時間が分かりづらい●行き先が分かりづらい

鉄 道 の 活 用

●ＪＲ駅までのアクセスが悪い●ＪＲ駅はあるが便数が少ない●ＪＲ駅が活用されていない

Ch.1

長崎まちづくりのガイドデザイン2050について（補足）

Ch.2

現状整理

Ch.3

長崎市のまちの可能性とまちづくりの考え方

Ch.4

みらいの長崎に向けたまちづくり

Ch.5

策定経過

Ch.6

用語集

E 広域連携

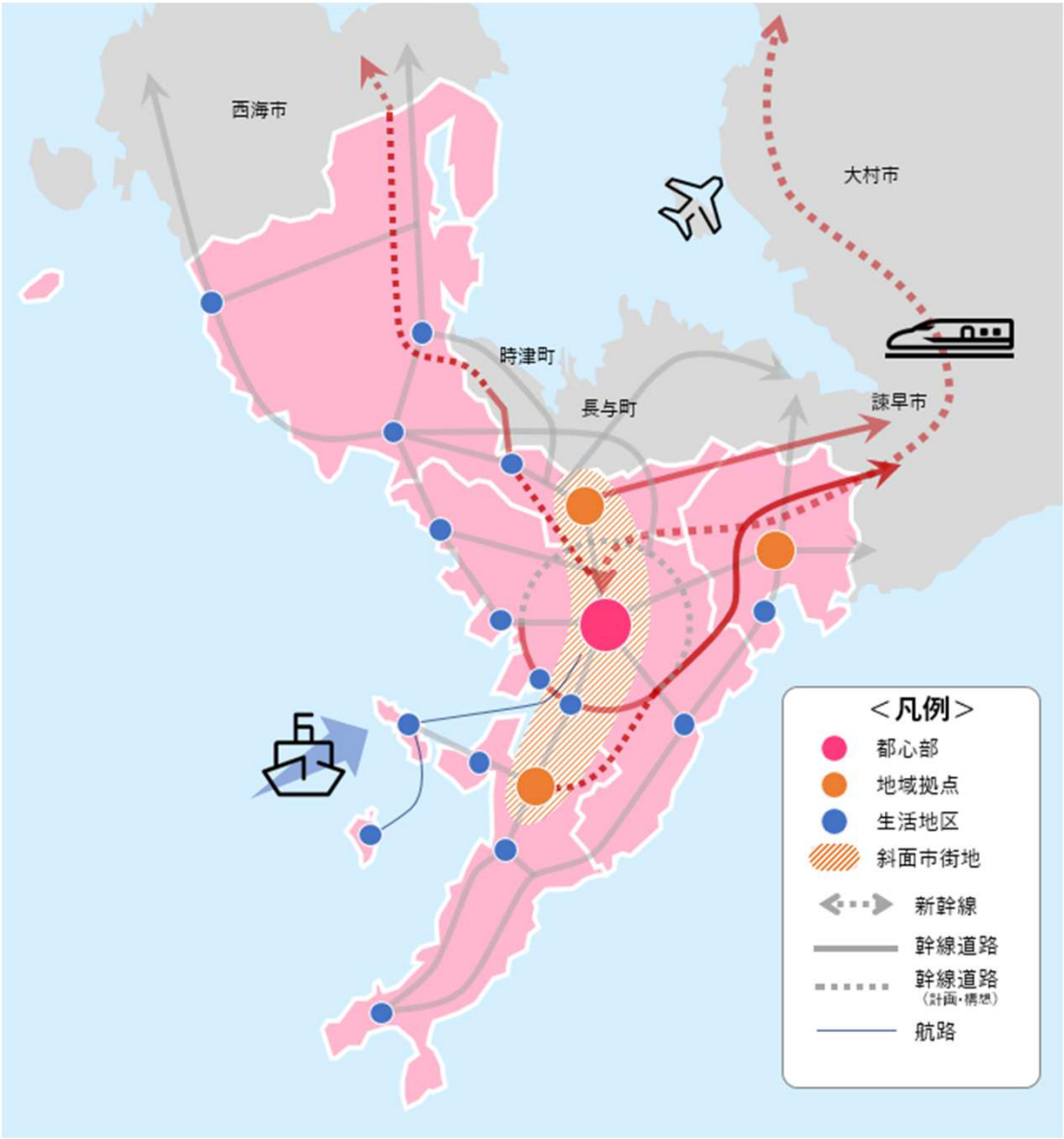
概 況

広域ネットワークの形成が進む

令和4年9月九州新幹線西九州ルート（リレー方式）が開業。
 現在は、新幹線のフル規格化に向けた動きや、松が枝国際観光船埠頭2バース化、西彼杵道路・長崎南北幹線道路の整備が進むなど、広域ネットワークの形成が進んでいる。

近隣都市への半導体関連企業の集積

近隣都市では、半導体関連企業の集積や洋上風力発電事業が進められている。

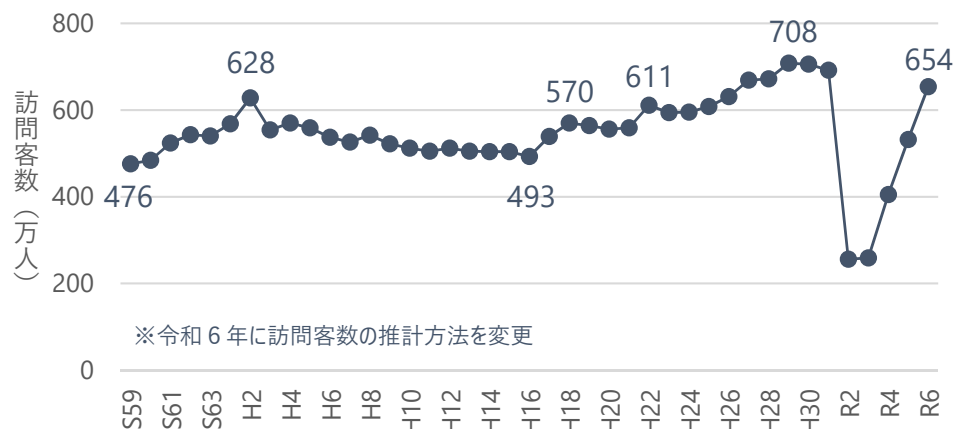


E 広域連携

現状分析

● 訪問客数の推移

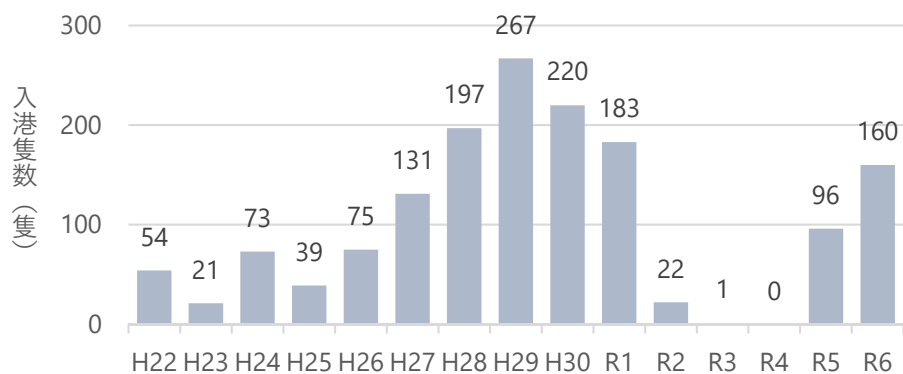
- 平成29年に過去最高となる708万人に達する
- 新型コロナウイルス感染症の影響により急激に落ち込んだが、現在は回復傾向にある



● クルーズ客船寄港数の推移

出典：長崎市「観光統計」

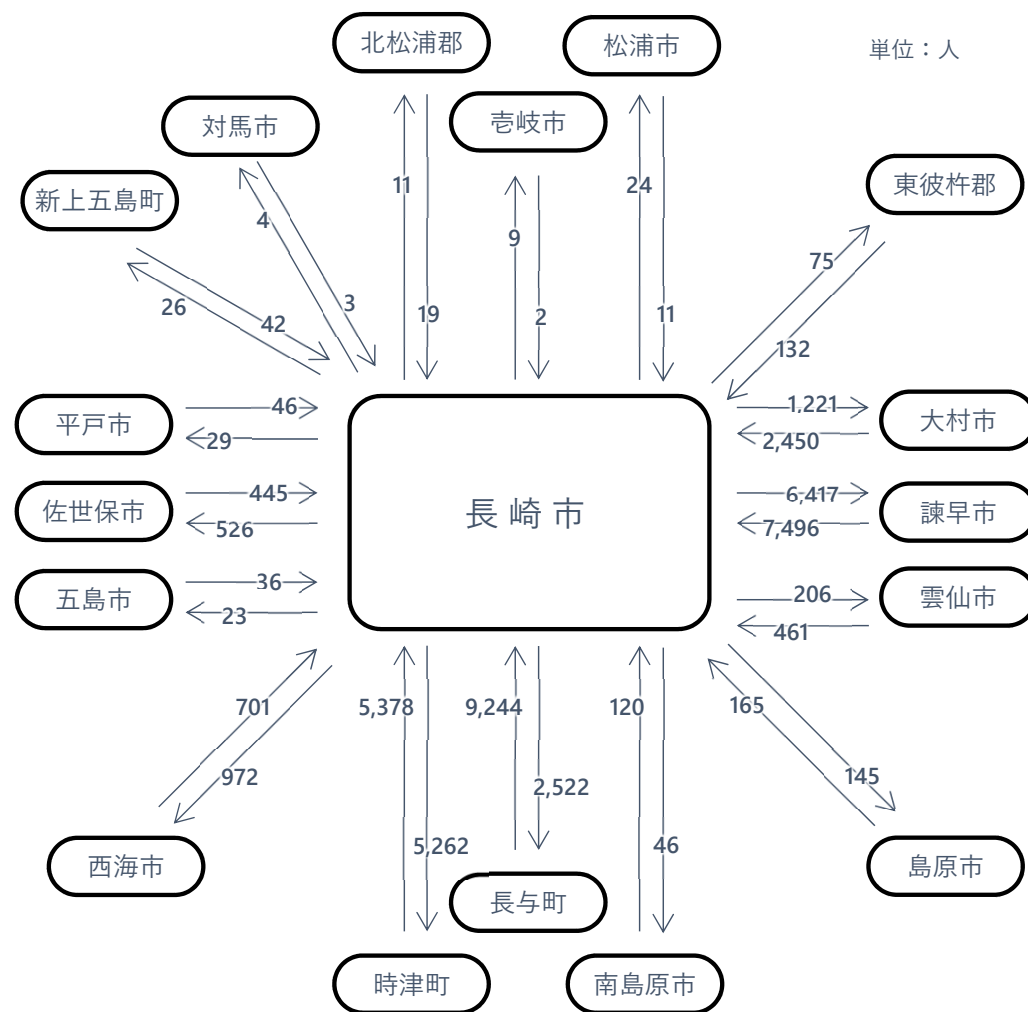
- 平成29年に過去最高となる267隻に達する
- 新型コロナウイルス感染症の影響により急激に落ち込んだが、現在は回復傾向にある



出典：長崎市「観光統計」

● 15歳以上通勤者の流動状況

- 諫早市、長与町、時津町と人口流動のつながりが強い



出典：総務省「国勢調査」

E 広域連携

現状分析

● 15歳以上通勤者数の推移

- 長崎市から諫早市への通勤者は増加傾向

居住地	勤務地	平成22（2010）年	平成27（2015）年		令和2（2020）年	
				増減率(対H22)		増減率(対H22)
長崎市	諫早市	5,608	5,661	0.95%	6,417	14.4%
	時津町	5,284	5,331	0.89%	5,262	0.42%
	長与町	2,527	2,427	▲3.96%	2,522	▲0.20%

出典：総務省「国勢調査」

● 主な通勤エリア

- 長崎市から諫早市に通勤する者の主な通勤エリアは、「諫早インターチェンジ南側工業団地」

<諫早市>			<時津町>			<長与町>		
No	主な通勤エリア	勤務者数割合※	No	主な通勤エリア	勤務者数割合※	No	主な通勤エリア	勤務者数割合※
1	諫早IC南側工業団地	27.5%	1	三菱電機、七工区工業団地	17.3%	1	イオンタウン長与、高田駅周辺	16.2%
2	アクロスプラザ周辺	8.3%	2	10工区商業施設集積地	15.0%	2	長崎商業、長崎高等技術専門学校周辺	10.0%
3	西諫早産業団地	2.7%	3	イオン時津店周辺	12.0%	3	天満宮バス停周辺	5.5%

※各勤務エリア内の勤務者数÷長崎市からの勤務者の総数

出典：GEOTRA Activity Date

本市のまちづくりに関連する最近の主な動き

全域

洋上風力発電事業
(西海市江島沖)

西彼杵道路・長崎南北幹線道路の整備

西海市

北部

西彼杵道路インターチェンジ
提言位置

大村市

長与町

東部

中央

南部

長崎ベイエリアにおける
カーボンニュートラルの推進

洋上風力技能者訓
練施設の開所

民間企業による
カーボンニュートラルの推進

東長崎縦貫線
の整備

長崎総合科学大学キャン
パス整備計画
先端グリーン・デジタル理工学部(仮
称)の新設に伴うキャンパス整備計画

長崎南環状線の整備

工業団地の分譲予定
(為石浄水場跡地)

<凡例>

● 都心部

● 地域拠点

● 生活地区

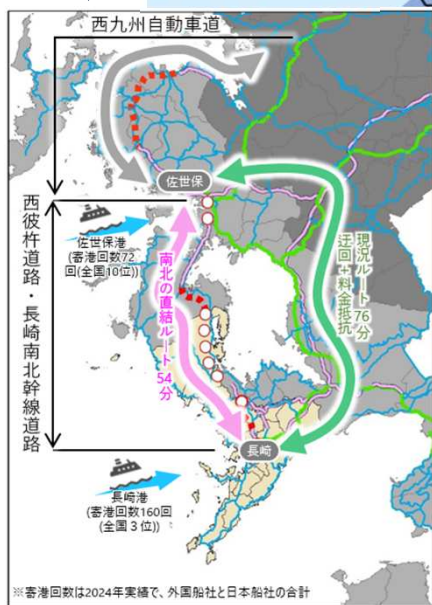
■ 斜面市街地

--- 新幹線

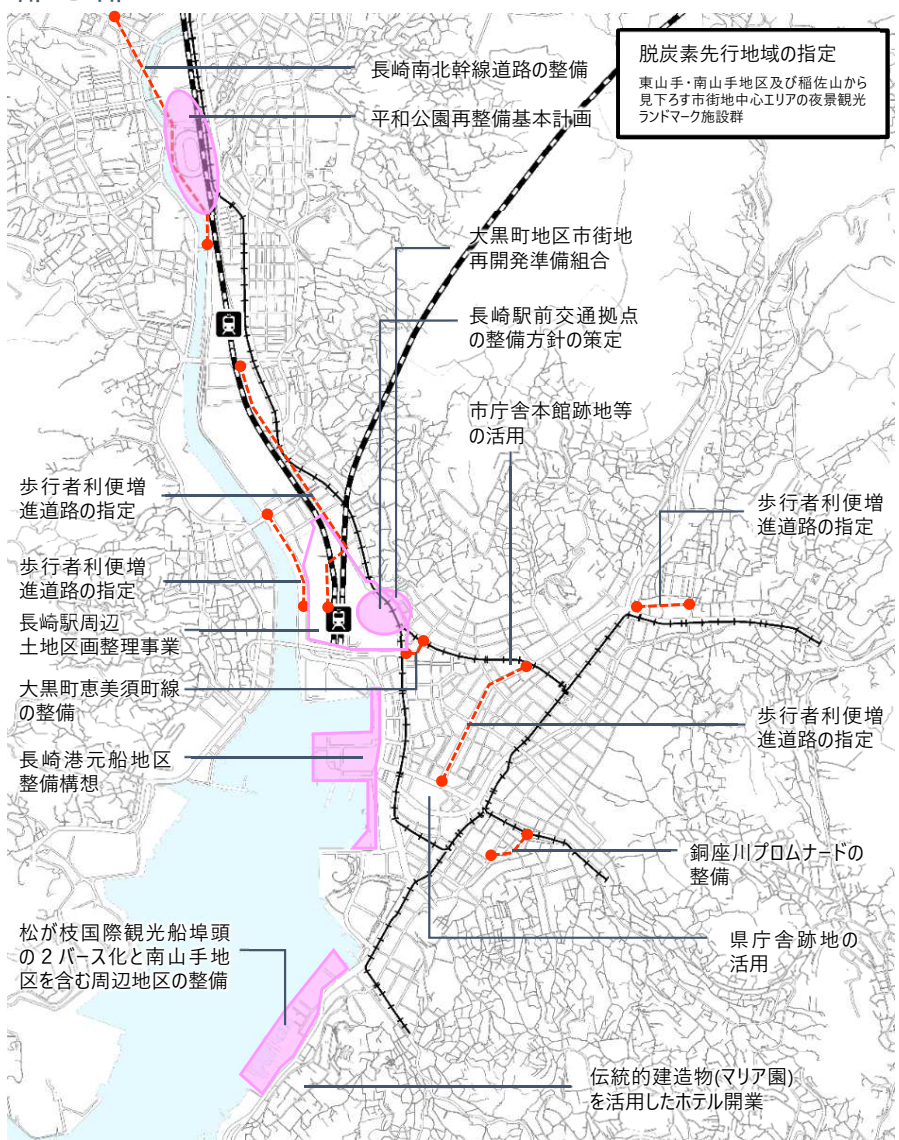
— 幹線道路

--- 幹線道路
(計画・構想)

— 航路



都心部



Ch.1	長崎まちづくりのブランドデザイン2050について(補足)
Ch.2	現状整理
Ch.3	長崎市のまちの可能性とまちづくりの考え方
Ch.4	みらいの長崎に向けたたまづくり
Ch.5	策定経過
Ch.6	用語集

まとめ

現状整理や本市のまちづくりに関連する主な取組みを踏まえ、エリア・ネットワークのポテンシャルを整理します。

A 都心部

- 高次な都市機能や多様な魅力がコンパクトに集積した集客拠点
- 100年に一度と称されるまちづくりにより、さらなる交流拡大が期待

B 地域拠点・生活地区

中央

- 都心周辺に位置し、自然に恵まれ、世界遺産構成資産等を有す
- 海洋関連産業を活かした新分野の取組みも見込まれる

北部

- 海・山・川といった自然に恵まれ、世界遺産構成資産などを有す
- 道路整備によるアクセス向上で、居住地の魅力や交流拡大が期待
- 重要な漁港や農林業事業所が集積し、広域道路を活用した企業誘致も期待

東部

- 長崎と諫早中心部の間に位置
- 大学キャンパス再編の検討や諫早では半導体関連企業集積が進み、大学や近隣都市と連携したまちづくりが期待

南部

- マリナクティビティを体験できる豊かな自然やリゾート施設、恐竜博物館等を有す
- 道路整備によるアクセス向上で、居住地の魅力や交流拡大が期待
- 海洋関連産業を活かした新分野の取組みも見込まれる

C 斜面市街地

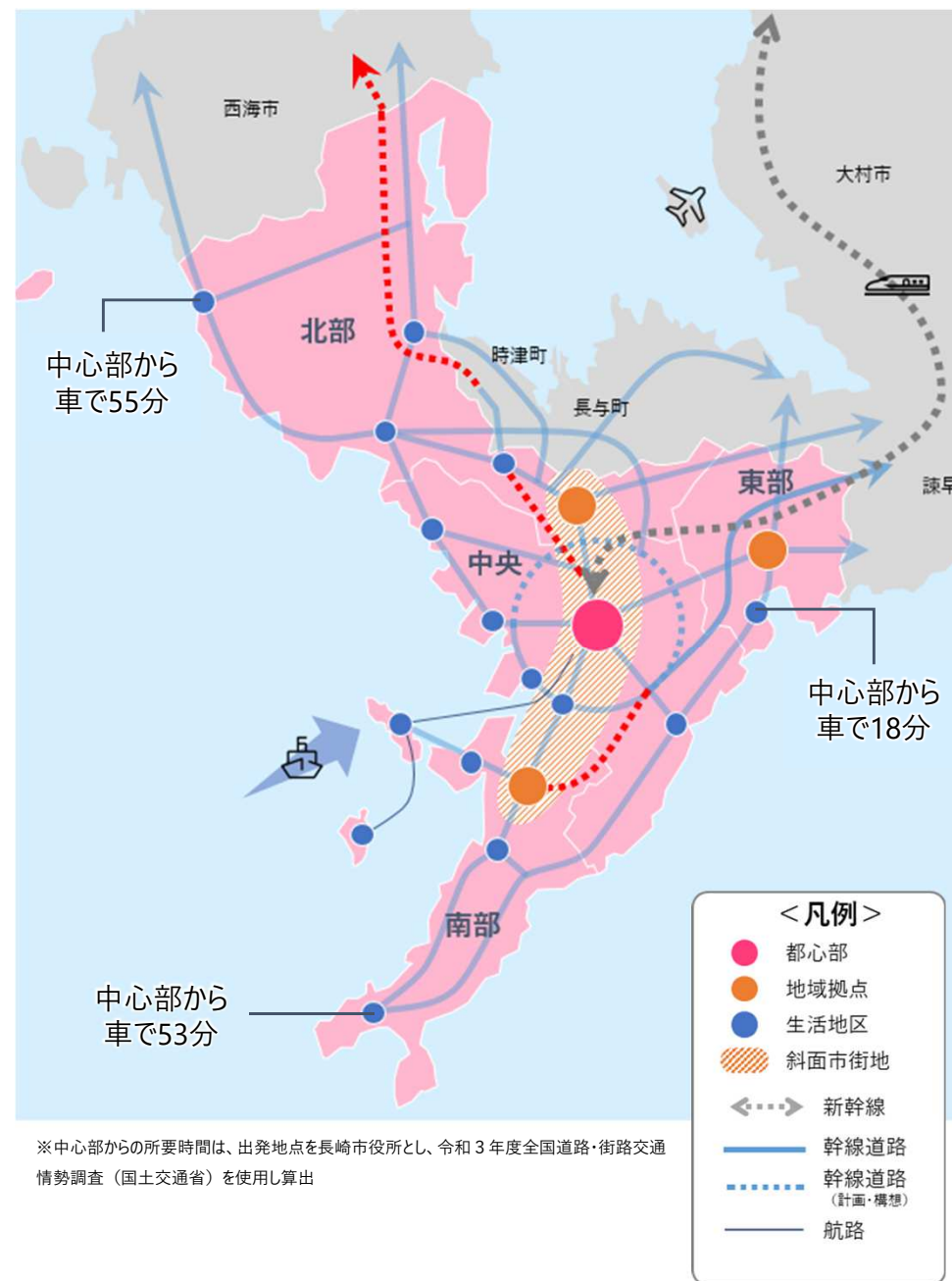
- 地形的制約から暮らしやすさに課題があるが、特徴的な眺望や静謐な環境、通風・採光といった斜面地ならではの魅力がある

D 都心部と周辺部のつながり

- 長崎市内の各エリアは公共交通でつながるとともに、都心部から車で1時間圏内にある
- 道路整備により、各エリア間のつながりの強化が期待

E 広域連携

- 新幹線や松ヶ枝国際観光船埠頭2バース化、広域幹線道路網の活用により、さらなる交流人口の増加や近隣都市の産業との連携強化が期待。



Ch.1	長崎まちづくりのガイドライン2050について（補足）
Ch.2	現状整理
Ch.3	長崎市のまちの可能性とまちづくりの考え方
Ch.4	みらいの長崎に向けたまちづくり
Ch.5	策定経過
Ch.6	用語集

Chapter 3 長崎市のまちの可能性とまちづくりの考え方

この章では、第2章で把握した現状を基に、以下の2点について整理します。

- 長崎市のまちの可能性
- テーマごとのまちづくりの考え方

長崎市のまちの可能性

第2章で整理したエリア・ネットワークのポテンシャルを踏まえ、長崎市のまちの可能性を整理します。

A 都心部

高次な都市機能が集積する集客拠点

歴史・文化、スポーツ、国際色豊かなまちなみなど多様な魅力

B 地域拠点・生活地区

一定の都市機能が各地域の拠点に集積

中央	都心周辺に位置し、自然環境に恵まれる
北部	海・山・川といった自然環境に恵まれ、道路整備で居住地の魅力向上も期待
東部	長崎と諫早中心部の中間に位置し、大学や近隣都市と連携したまちづくりに期待
南部	マリナクティビティ等を体験できる自然環境に恵まれ、道路整備で居住地の魅力向上も期待

中央	世界遺産構成資産、海の駅など
北部	世界遺産構成資産、道の駅夕陽ヶ丘など
東部	ペンギン水族館、長崎街道（シュガーロード）など
南部	リゾート施設、恐竜博物館など

C 斜面市街地

居住誘導区域	地形的制約が小さく、居住を誘導する安全で暮らしやすいエリア
自然共生区域	空地を活用し、眺望・通風・採光といった斜面地の魅力を活かしたゆとりある居住を許容するエリア

斜面市街地ならではの特徴的な眺望

D 都心部と周辺部のつながり

- 公共交通網の発達（公共交通徒歩圏人口カバー率8割）
- 高規格道路の整備（西彼杵道路・長崎南北幹線道路、南環状線）
- 光回線の充実

E 広域連携

- 新幹線開業
- 松が枝国際観光船埠頭2バース化
- 高規格道路の整備（西彼杵道路・長崎南北幹線道路、南環状線）

多様な暮らし・過ごし方

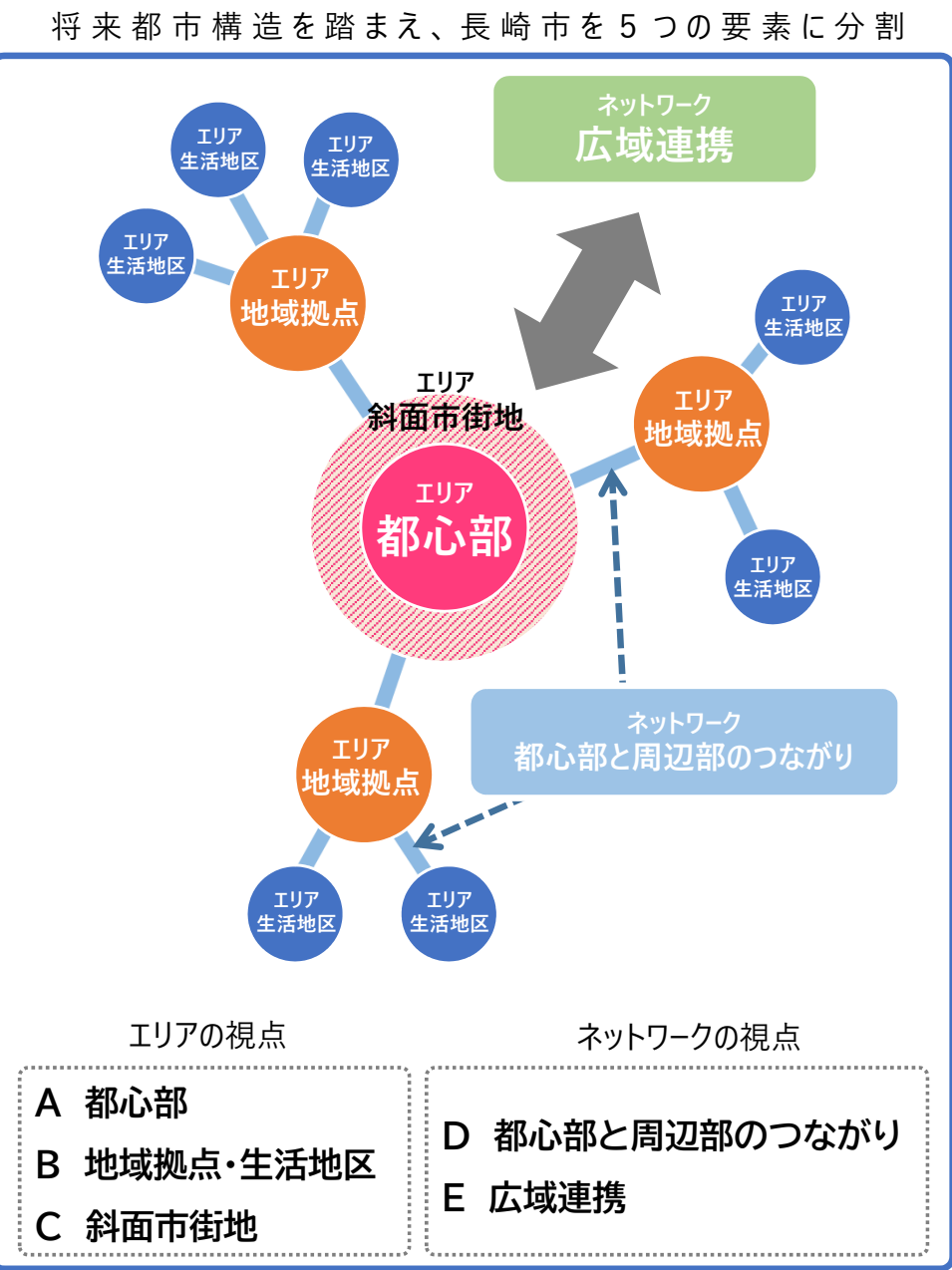
豊富な観光資源

各拠点につながりがある

広域交通網の充実

3 미래の長崎に向けて

未来の長崎に向けた、エリアとネットワークの視点ごとのまちづくりの考え方



多様な魅力が多くの人・企業をひきつけ、
長崎独自の暮らし・過ごし方を選択できる、
だれもが安全・安心に暮らせる長崎づくり

エリアの視点

- A
都心部
人、企業、投資を呼び込む
求心力の核となるエリアづくり
- B
地域拠点・生活地区
豊かな自然などの魅力を感じ、
地域ならではの暮らし方や過ごし方が
できるエリアづくり
- C
斜面市街地
眺望の良さや静かな環境などの魅力を感じ、
斜面地ならではの暮らし方や過ごし
方ができるエリアづくり

ネットワークの視点

- D
都心部と周辺部
のつながり
だれもが円滑に移動でき、
どこに住んでも十分な生活サービスを受
けられるネットワークづくり
- E
広域連携
広域で連携しながら、観光客や働く人、
住む人を呼び込むネットワークづくり

Ch.1	長崎まちづくりのグランドデザイン2050について（補足）
Ch.2	現状整理
Ch.3	長崎市のまちの可能性とまちづくりの考え方
Ch.4	みらいの長崎に向けたまちづくり
Ch.5	策定経過
Ch.6	用語集

Chapter 4 みらいの長崎に向けたまちづくり

この章では、第3章で整理したエリア・ネットワークごとのまちづくりの考え方と、現状分析や市民意見、検討委員会の意見を踏まえ、各テーマにおけるこれからの「まちづくりの方針」と「取組みの方向性」を整理します。

A 都心部 人、企業、投資を呼び込む求心力の核となるエリアづくり

▶ 現状・問題点

現状分析	
交流や多様な活動を生み出す空間が不足	
魅力的な回遊動線や交通結節機能が不足	
歴史文化等の多様な資源がコンパクトに集積	臨海部を中心に100年に一度のまちづくり
特にまちなか（浜町）の歩行者通行量が減少	まちなかの空き店舗の増加
商業業務系建物の減少	低未利用地が駐車場に転換
長崎駅周辺は滞在割合（活動量）が増加し、浜町周辺は減少	

市民意見
<ul style="list-style-type: none"> • 人が気軽に集う場所がない • 芸術などを共有・披露する場や若者が遊ぶ場所が不足
歩きにくい、休憩場所や街路樹が少ない
<ul style="list-style-type: none"> • 浜町に行かなくなった • 臨海部で買い物が完結

検討委員会
<ul style="list-style-type: none"> • 意図的に出会いをつくる • 人材を集め、交流を仕掛ける • 用途を掛け合わせた場所 • チャレンジの後押し
お店を楽しみながら歩ける環境があると良い
観光と暮らしの間にはクリエイティブ（創造性）がはまりやすい



▶ 方針

方針Ⅰ

交流や多様な活動を生み出そう

方針Ⅱ

人中心の楽しい都市空間を創出しよう

方針Ⅲ

エリアの価値創造に取り組もう

方針Ⅰ 交流や多様な活動を生み出そう

取組みの方向性

① 居場所づくりや交流が生まれる空間の創出

市民や来訪者が心地よく過ごせる場所や、交流が生まれる空間の創出。

— 取組みイメージ —

【憩いの場となる道路空間】



出典：国土交通省「居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン」

【官民連携による公園活用】



出典：富山市「PPPプラットフォームの取り組みと官民対話」

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

【参考】市民意見

- 来訪者から刺激をもらえるまちになってほしい
- 海外との交流が活発なまちになってほしい
- 世代を超えてつながりがあるまちになってほしい
- 若者の第3の居場所をつくってほしい
- 浜町に気軽に立ち寄れるまちなか広場があると良い
- みち遊びができる仕組みをつくれると良い
- 人材の交流でまちを活性化する取組みが必要

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅰ 交流や多様な活動を生み出そう

取組みの方向性

② 公共空間や低未利用地などの柔軟な活用

公共空間やオープンスペース、低未利用地などを、多様化するニーズなどを踏まえて柔軟に活用。

— 取組みイメージ —

【都市公園を柔軟に活用】



出典：横浜市「公募型行為許可制度」

【駐車場を活用した交流の創出】



出典：富山市「富山市都市再生整備事業の概要」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 様々な世代が過ごしやすい公園があるまちになってほしい
- 公園や道路を滞在空間として活用してほしい
- 民間の空き地などを活用し、フリースペースや休憩できる空間として活用する取組みが必要

方針Ⅰ 交流や多様な活動を生み出そう

取組みの方向性

③スポーツや文化芸術などを活用した賑わいの創出

スポーツ、音楽、アートなど、まちづくりと親和性の高いコンテンツを活用した賑わい創出の取組みの推進。

— 取組みイメージ —

【スポーツによる賑わい創出】



※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 芸術や音楽のイベントを増やす取組みが必要
- 文化の香りあふれる長崎になってほしい

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅱ 人中心の楽しい都市空間を創出しよう

取組みの方向性

① 人に優しく緑を感じる空間の創出

道路空間再編や歩きやすい歩道整備など、人中心の安全・安心・快適な道路空間の創出。

— 取組みイメージ —

【歩いて楽しい道路空間の創出】



出典：国土交通省「多様なニーズに応える道路の事例集」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

●歩いて暮らせるまちになってほしい●だれもが歩きやすいまちになってほしい●コンパクトな市街地を活かした歩きたくなるまちづくりをしてほしい●美しい緑が多いまちになってほしい●歩道に樹木がなく、日影がない。子どもが散歩できるような日影があると良い●暑すぎて外出が億劫であり、ランドマーク周辺の歩道に木陰がほしい●歩かないと消費は生まれない。いかに歩いてもらえるかが大事●回遊しやすい、回遊が生まれる通りがあると良い●まちなかまで人の流れを生み出すようなとおりをつくるべき

方針Ⅱ 人中心の楽しい都市空間を創出しよう

取組みの方向性

③ 沿道の魅力向上

建物の1階をまちに開かれた空間とするなど、沿道の魅力向上。

— 取組みイメージ —

【デザインガイドラインに基づくまちなみ形成】



出典：大阪市「御堂筋デザインガイドライン」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- まちの一等地や商業地に建つマンションの1階部分は、販売サービス業を誘導してほしい
- 建物の美観を意識した取組みが必要

方針Ⅱ 人中心の楽しい都市空間を創出しよう

取組みの方向性

④ 移動の支援

まちの賑わいを感じながら移動できる手段の導入。

— 取組みイメージ —

【次世代モビリティの活用】



出典：国土交通省「次世代モビリティネットワークの検討」

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- モビリティで海を感じながら移動できる手段があると回遊しやすい
- 電気自動車を導入する必要

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅲ エリアの価値創造に取り組もう

取り組みの方向性

① エリアの価値を維持・向上させる体制の構築

様々な主体が連携し、良好な環境の保全とエリア価値の維持・向上を目指す体制の構築。

— 取り組みイメージ —

【公民学など様々な主体が連携した事業の推進】



出典：国土交通省「官民連携まちづくりポータルサイト」

※取り組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- まちをコーディネートする場やコーディネーターがいる場所を確保してほしい
- まちづくりを普段から話す場所があるまちになってほしい
- 普段からまちづくりについて議論できる場所が必要
- まちのことを教えられる意見交換の場が必要
- まちの担い手を育成するシステムが必要
- 人材育成や人材を発掘する仕組みが必要
- 新しい取り組みを行うにしてもプレイヤーがいないため、プレイヤーを増やす仕組みが必要

他都市の取り組み事例

※取り組みの方向性に関連する他都市の取り組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅲ エリアの価値創造に取り組もう

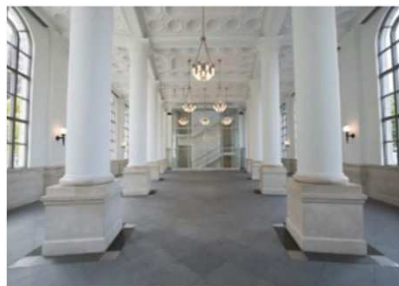
取り組みの方向性

② 取り組みを支える場の確保

公共施設や歴史的建造物などを活用して、価値創造の取り組みを支える場を確保。

— 取り組みイメージ —

【歴史的建造物を活用した創造的活動の発信】



出典：横浜市HP

※取り組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 創造的な活動ができるまちになってほしい
- 作家たちの活動拠点が至る所にある創作活動が溢れるまちになってほしい
- スモールビジネスを始めやすいまちになってほしい
- 図書館や文化施設などを、市民に開かれた創造的活動の場にする取り組みが必要
- アートに触れられる機会を創出する必要
- 平和に関連する産業を生み出す取り組みが必要
- 簡単にチャレンジ（起業等）できる仕組みがほしい

他都市の取り組み事例

※取り組みの方向性に関連する他都市の取り組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

B 地域拠点・生活地区

豊かな自然などの魅力を感じ、地域ならではの暮らし方や過ごし方ができるエリアづくり

▶ 現状・問題点

現状分析

各生活地区の居住者は、地域拠点で一定の生活サービスを受

生活サービス関連事業所の減少

都市計画区域内の1人当り都市公園面積は基準以上

公共施設の再編が進められている

路線バスの減便・路線廃止

県内への主な転出理由は「居住環境」

空き家の増加

総合科学大学の新学部設置

市内全域で光回線が利用可能

豊かな自然や世界遺産構成資産点在

市民意見

- 身近な場所の店が無くなり買い物が大変
- 遊び場が少ない、ニーズを反映できていない公園が多い
- 廃校舎等の既存ストック活用が課題
- 車がないと生活しづらい
- 都心部と生活地区のアクセスが弱い
- 交流できる場が少ない

- 若者が住みたいと思う住宅が少ない
- 空き家バンクが活用されていない
- テレワークなど多様な働き方ができる環境整備を求める意見が多い

自然や観光資源を活かしきれていない

▶ 方針

方針Ⅰ

暮らしやすさを確保しよう

方針Ⅱ

魅力ある暮らし方・過ごし方を提供しよう

方針Ⅲ

豊かな自然など地域の魅力を活用しよう

方針Ⅰ 暮らしやすさを確保しよう

取組みの方向性

地域
拠点

① 都市機能の維持・向上

地域の生活を支える拠点として、商業や医療などの都市機能の維持・向上。

— 取組みイメージ —

【都市機能の誘導】



出典：長崎市「長崎市都市計画マスタープラン」

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 地域医療に力を入れる取組みが必要
- 医療機能の充実を図る取組みが必要

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

Ch.1

長崎まちづくりのガイドデザイン2050について（補足）

Ch.2

現状整理

Ch.3

長崎市のまちの可能性とまちづくりの考え方

Ch.4

みらいの長崎に向けたまちづくり

Ch.5

策定経過

Ch.6

用語集

方針Ⅰ 暮らしやすさを確保しよう

取組みの方向性

地域
拠点

② 交通の要所として整備

生活地区と都心部・近隣都市をつなげる交通の要所として整備。

— 取組みイメージ —

【乗継拠点と都市機能の一体化】



出典：国土交通省「国土交通省白書2021」

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 都心部と生活地区をつなぐ交通整備の取組みが必要

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅰ 暮らしやすさを確保しよう

取組みの方向性

地域
拠点

生活
地区

③ 地区内の移動支援

車がなくても移動できる手段の確保や体制の構築。

— 取組みイメージ —

【車がなくても便利に安心して移動できるモビリティサービス】



出典：国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- コミュニティバスを増やしてほしい
- 公共交通事業に参入しやすいよう規制緩和をしてほしい
- ライドシェアの取組みが必要
- 乗合タクシーなどの仕組みが必要
- だれもが気軽に外出できる仕組みをつくってほしい
- 便利で安く移動できる仕組みづくりが必要

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅰ 暮らしやすさを確保しよう

取組みの方向性

生活地区④ 住民が集まりやすい場所の多機能な活用

公共交通の乗継拠点など、住民が集まりやすい場所を多機能に活用。

— 取組みイメージ —

【バス停に買い物・交流施設を併設】



出典：国土交通省「地域交通共創モデル実証プロジェクト」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 地域交流の場を増やす取組みが必要
- 買い物が便利なまちになってほしい
- 移動販売を支援してほしい
- 人々が気軽に悩みなどを話し合う場の確保が必要
- 自宅近くでちょっとした買い物ができると助かる
- 生活サービスを改善してほしい

方針Ⅰ 暮らしやすさを確保しよう

取組みの方向性

地域
拠点

生活
地区

⑤ ニーズを反映した憩い・遊び場の確保

小規模公園等を、住民ニーズを踏まえながら再編・改善するなど、満足度が高い憩いや遊び場の確保。

— 取組みイメージ —

【ニーズを取り入れ公園をリニューアル】



出典：長崎市「横尾地区公園リニューアル」

【旧小学校を遊具エリアに整備】



出典：新上五島町「こども未来交流センター」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 子育て世帯向けの公園を整備してほしい
- 子どもを安心して遊ばせることができる公園があるまちになってほしい
- 公園・広場の全体的な見直しが必要
- 子どもも大人も一緒に楽しめる公園や施設を増やす取組みが必要
- 利用されていない公園が多いためテーマ別で公園の役割を設定する
- 日影がなく、遊具も暑くて遊べないため、ちょっとした日影があると良い。
- 自然に触れあいながら遊ぶ施設が不足している
- 子どもが遊べる場所（全天候型など）があると良い

方針Ⅱ 魅力ある暮らし方・過ごし方を提供しよう

取組みの方向性

生活地区 ①地域ならではのライフスタイルを実現できる環境づくり

豊かな自然を感じる暮らしなど、地域ならではのライフスタイルを実現できる環境づくり。

— 取 組 み イ メ ー ジ —

【二地域居住の促進】



出典：国土交通省「二地域居住等施策推進ブック」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 自然を活かしたまちになってほしい
- 緑あふれるまちになってほしい
- 若者向けの低廉な価格の住宅を確保してほしい
- ワークライフバランスを実現できる取組みが必要

方針Ⅱ 魅力ある暮らし方・過ごし方を提供しよう

取り組みの方向性



②職住育が近接したまちへ転換

自宅近くで日常生活をおくることができるよう職住育近接型のまちへ転換。

— 取り組みイメージ —

【空き家をコワーキングスペースや子育て拠点に活用】



出典：内閣府「地域住宅団地再生事業の活用イメージ」

※取り組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 子育てに強いまちになってほしい
- 安心して子育てと仕事が両立できる環境づくりを進めてほしい
- コワーキングスペースを都心部以外にもつくってほしい
- 子育てしやすい仕組みをつくってほしい
- ワークライフバランスを実現できる取り組みが必要

他都市の取り組み事例

※取り組みの方向性に関連する他都市の取り組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅱ 魅力ある暮らし方・過ごし方を提供しよう

取組みの方向性



③地域再生の担い手の確保

自治体等と連携し、より住民に近い立場から地域再生に取り組む担い手の確保。

— 取組イメージ —

【まちづくり担い手育成支援事業】



出典：各務原市「まちづくり担い手育成支援事業」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 【再掲】まちの担い手を育成するシステムが必要
- 【再掲】人材育成や人材を発掘する仕組みが必要

方針Ⅲ 豊かな自然など地域の魅力を活用しよう

取組みの方向性

地域
拠点

生活
地区

①地域の魅力に触れられる場の確保

空き家などを活用した観光客を呼び込む滞在体験施設など、地域の魅力に触れられる場の確保。

— 取組イメージ —

【空き家を活用し滞在体験施設を整備】



出典：尾道市「空き家等活用促進モデル事業」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 地域資源を活かしたまちづくりを進めてほしい
- 一次産業に力を入れてほしい（ブランド化など）
- 一次産業の生産者のつながりをつくり、新たな魅力を創出する取組みが必要ではないか
- 長崎の食や自然をもっとアピールすべき
- 空きスペースや公共施設を活用し、交流創出や多様な活動の実現を図ってほしい
- メインとした目的地以外にも追加の観光体験を提案できるといい
- 周辺部にも交流人口を波及するよう考えてほしい

方針Ⅲ 豊かな自然など地域の魅力を活用しよう

取組みの方向性

地域
拠点

生活
地区

②地域資源を活用した取組みの推進

公共施設などの余剰空間を活用したチャレンジショップなど、地域資源を活用した取組みの支援。

— 取 組 み イ メ ー ジ —

【公共空間にチャレンジショップを設置】



出典：須賀川市「創業（チャレンジ）応援事業」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 【再掲】スモールビジネスを始めやすいまちになってほしい
- 小さいながらも地域資源を活かした様々な魅力を生み出し、そうした魅力を繋げて発信していく取組みが必要
- 【再掲】使われていない公共施設を利活用出来る取組みを行ってほしい
- 【再掲】周辺部にも交流人口を波及するよう考えてほしい
- 【再掲】周辺部にお金を落としてもらえるような仕組みを考えてほしい
- 【再掲】一次産業の生産者のつながりをつくり、新たな魅力を創出する取組みが必要ではないか

▶ 現 状 ・ 問 題 点

【現状分析】

車が入らない道や坂道・階段道が多い

高齢者世帯※の約 5 割が居住

空き家の約 6 割が斜面地に存在

平坦地と比べ地価が安い

【市民意見】

とにかく移動が大変

まちに降りないと買い物ができない

災害時の高齢者の避難が課題

空き家はあるが住む場所がない

若者が住みたがらない

眺望が良く、静かな環境

斜面地からの眺望は観光資源として活用できる

斜面地からの景色を眺められる素敵なお店もある

【検討委員会での意見】

高齢者の生活を支援する視点も重要

車が通らない道路に接道する空き家活用は限界がある

静謐な環境は子育てに適している

▶ 方 針

方針Ⅰ

斜面地に合った暮らしやすさを確保しよう

方針Ⅱ

安全で暮らしやすい場所での暮らしを推進しよう

方針Ⅲ

斜面地ならではの魅力を活用しよう

方針Ⅰ 斜面地に合った暮らしやすさを確保しよう

取組みの方向性

①既存ストックを活かした交通環境の改善

既存の道路インフラを有効活用し車が通る道路を整備するなど、交通環境の改善。

— 取組みイメージ —

【階段道のスロープ化】



出典：長崎市「車みち整備事業とは」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 垂直エレベーターを増やし、斜面地を再生する取組みが必要
- 斜面地エレベーターが必要
- 車が通れる道路を整備する取組みが必要

方針Ⅰ 斜面地に合った暮らしやすさを確保しよう

取組みの方向性

②移動の支援

狭い道でも走行できるモビリティ等を活用した移動支援の導入の推進。

— 取組みイメージ —

【様々なモビリティを活用した移動支援】



出典：国土交通省「グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 斜面地のアクセスをどうにかしてほしい
- 斜面地から都心部に行きやすい移動手段を確立する取組みが必要
- 車が入らない道路を次世代モビリティで移動できるような取組みが必要
- 移動しやすいモビリティを導入する必要

方針Ⅰ 斜面地に合った暮らしやすさを確保しよう

取組みの方向性

③未利用ストックの多機能な活用

空き地などの未利用ストックを多機能に活用。
— 取組みイメージ —

【土地を多機能に活用する事例】



出典：さいたま市「シェア型マルチモビリティの取組と交通政策」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予
定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回
検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 斜面地の空き地を活用する取組みが必要
- 空き地を周辺住民の共有地として活用・管理できれば良い
- ドローン配送や移動販売車による取組みが必要
- 【再掲】移動販売を支援してほしい

方針Ⅱ 安全で暮らしやすい場所での暮らしを推進しよう

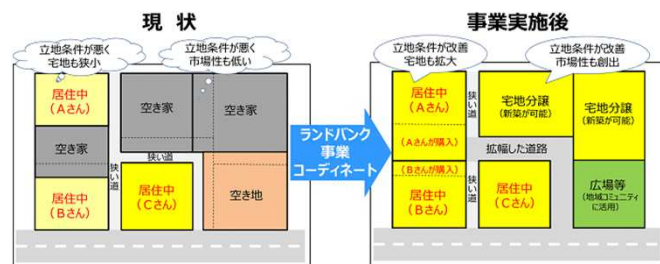
取組みの方向性

未利用ストックなどを活用した環境づくり

複数の空き地・空き家等を区画再編するなどし、市場価値のある住宅ストックなどを確保。

— 取組みイメージ —

【未利用ストック等を活用した小規模区画再編】



出典：広島県「広島型ランドバンク事業」

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 若者・学生がすむまちになってほしい
- 体力がある人や若者が低廉な価格で斜面地に安く・便利に住むまちになってほしい
- 安全に暮らせる斜面地になってほしい
- 斜面地を区画整理し、若い人が適切な価格で定住するまちになってほしい

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅲ 斜面地ならではの魅力を活用しよう

取組みの方向性

斜面地の魅力を活用した取組みの支援

建物用途規制の緩和などにより、斜面地の魅力を活用する取組みの支援。

— 取 組 み イ メ ー ジ —

【遊休地を農園として活用しコミュニティ再生へ】



出典：国土交通省「空き地等の新たな活用」

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回
検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 旧魚の町団地のようにチャレンジする人が集まるような場所になってほしい
- 良い景色を眺められる公園やお店、展望スペースがある場所になってほしい
- 若者向けのコワーキングスペースがあると良い
- 坂の上の歴史を大事にし、歴史的な建物を活用するまちになってほしい
- 【再掲】スモールビジネスを始めやすいまちになってほしい
- 斜面地の魅力をもっと活用してほしい

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

▶ 現 状 ・ 問 題 点

▶ 方 針

現状分析

市民意見

広域幹線道路網等の整備
(西彼杵道路・長崎南北幹線道路、長崎南環状線)

慢性的な交通渋滞

• 交通渋滞で外出を控える

路線バスの減便・路線廃止

• 都心部と生活地区のつながりが弱い
• 公共交通の減便が続き不便

方針Ⅰ

円滑な移動を支える
道路・交通ネットワークを形成しよう

方針Ⅱ

だれもが快適に移動
できる手段を確保しよう

方針Ⅰ 円滑な移動を支える道路・交通ネットワークを形成しよう

取組みの方向性

① 円滑な道路交通の確保

幹線道路網の充実や交通需要マネジメントなどにより、円滑な道路交通の確保。

— 取組みイメージ —

【幹線道路の整備】



出典：長崎県長崎振興局「長崎南環状線」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 交通渋滞が解消されたまちになってほしい
- 交通網が充実したまちになってほしい
- 【再掲】都心部と生活地区をつなぐ交通整備の取組みが必要
- どこに住んでも色々なところに行ける交通網がすぐにでもほしい
- 長崎には色々な魅力があるのに、そこまでのアクセスが悪い

方針Ⅰ 円滑な移動を支える道路・交通ネットワークを形成しよう

取組みの方向性

②公共交通のスムーズな移動を支える環境づくり

バス専用レーンの拡充などにより、公共交通のスムーズな移動の支援。

— 取組みイメージ —

【速達性・定時性を確保したバスの運行】



出典：岐阜市「岐阜市総合交通計画」

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

●【再掲】長崎には色々な魅力があるのに、そこまでのアクセスが悪い ●【再掲】色々な魅力があるが行くまでが大変 ●長崎市全体の公共交通によるアクセス性向上が大事 ●公共交通を充実させ、様々な場所にアクセスしやすくすると、長崎の強み（歴史文化、自然、食等）が主張できる

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅱ だれもが快適に移動できる手段を確保しよう

取組みの方向性

① 公共交通の持続可能性の向上

既存路線の効率化や見直し等を進め、将来にわたって持続可能な公共交通の実現。

— 取組みイメージ —

【公共交通を軸としたまちづくり】



出典：国土交通省「国土交通白書2024」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- だれもが公共交通機関で移動しやすいまちになってほしい
- 公共交通機関が維持できるまちになってほしい
- 路線バスの路線を再編する取組みが必要

方針Ⅱ だれもが快適に移動できる手段を確保しよう

取組みの方向性

② 公共交通のDXの推進

MaaSや自動運転の導入など、公共交通DXの推進。

— 取組みイメージ —

【自動運転バスの運行】



出典：国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

●【再掲】長崎には色々な魅力があるのに、そこまでのアクセスが悪い●【再掲】色々な魅力があるが行くまでが大変●長崎市全体の公共交通によるアクセス性向上が大事●公共交通を充実させ、様々な場所にアクセスしやすくと、長崎の強み（歴史文化、自然、食等）が主張できる

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅱ だれもが快適に移動できる手段を確保しよう

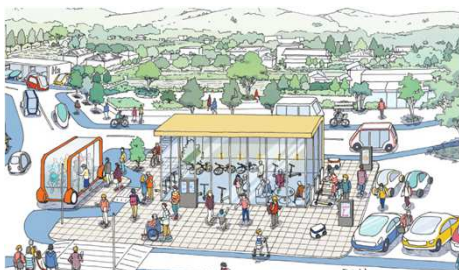
取組みの方向性

③ 様々な移動手段の円滑な接続

様々な移動手段の乗継環境を向上し、スムーズな乗り換えの実現。

— 取組みイメージ —

【様々な交通モードの接続・乗り換え拠点】



出典：国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 様々な施設にアクセスできる生活しやすいまちになってほしい●【再掲】だれもが気軽に外出できる仕組みをつくってほしい●交通が不便な場所をつくらない●【再掲】便利で安く移動できる仕組みづくりが必要

▶ 現状・問題点

現状分析

西九州新幹線の開業

広域幹線道路網の整備（西彼杵道路・長崎南北幹線道路、長崎南環状線）

クルーズ客船寄港数の回復

九州MaaSの運用開始

近隣都市への半導体関連企業集積

長崎市から諫早市への通勤者は増加傾向

諫早市通勤者の主な通勤エリアは「諫早インターチェンジ南側工業団地」

市民意見

- 半導体関連企業集積を踏まえた土地利用・都市基盤整備が必要
- 働く場がない

▶ 方針

方針Ⅰ

広域ネットワークを形成し、活用しよう

方針Ⅱ

産業機能を増進しよう

方針Ⅲ

居住機能を増進しよう

方針Ⅰ 広域ネットワークを形成し、活用しよう

取組みの方向性

① 広域ネットワークの形成

九州新幹線西九州ルート[※]の全線フル規格や高規格道路の整備といった広域ネットワークの形成の推進。

— 取組みイメージ —



出典：長崎県HP「西九州新幹線開業！」

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 新幹線のフル規格化をすすめてほしい
- 広域道路の整備が進んでおらず、早く進めてほしい
- 松が枝国際船観光船埠頭の2バース化を急ぐべきだと思う

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅰ 広域ネットワークを形成し、活用しよう

取組みの方向性

② 県内外との連携強化

二次交通の充実などにより、県内外との連携の強化。

— 取組みイメージ —



出典：長崎県HP「長崎市中心部の交通結節機能強化の基本計画」

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 空港からのアクセスを改善すべき
- 東長崎地区にはJRがあるが、JR駅までのアクセスが悪く、本数も少ない。JRがもっと便利になればと思う

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅱ 産業機能を増進しよう

取組みの方向性

① 企業立地用地の確保

広域幹線道路網の整備との連携や近隣都市の産業動向などを踏まえながら、土地利用の規制を緩和するなど、企業立地用地の受け皿の確保。

— 取組みイメージ —

【民間を活用した産業団地開発】



出典：経済産業省「産業立地政策について」

※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

- 企業や住宅が集積するまちになってほしい
- 企業をもっと呼び込んで活気あるまちにしてほしい
- 市街化調整区域の土地利用の規制を緩和する取組みが必要
- 企業誘致にしっかりと取組んでほしい
- 働ける場所をもっと増やすべきだと思う

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

方針Ⅲ 居住機能を増進しよう

取組みの方向性

① 住宅立地用地の確保

広域ネットワークの形成との連携や近隣都市の産業動向などを踏まえながら、土地利用の規制を緩和するなど、住宅立地用地の受け皿の確保。

— 取組みイメージ —

【住宅団地の造成】



※取組みの方向性に関連するまちづくりの動きや市民意見など（第5回検討委員会で掲載予定）

市民意見

●【再掲】企業や住宅が集積するまちになってほしい●【再掲】市街化調整区域の土地利用の規制を緩和する取組みが必要●東長崎地区はベッドタウンとして活用できる

他都市の取組み事例

※取組みの方向性に関連する他都市の取組み事例を掲載予定（第5回検討委員会で掲載予定）

テーマ共通

多様な主体の連携・協働やまちづくりの担い手を育成する体制の構築 市民意見

- 地域を元気にする魅力的・特徴的な人材を活用する取組が必要
- 若者がイベント運営しやすいまちになってほしい



出典：国土交通省
「まちづくりの可能性を広げるエリアプラットフォーム」

最新技術の活用とまちづくりDXの推進 市民意見

- スマートシティを目指すまちになってほしい
- 様々な情報のネットワークを強化するなど、情報のプラットフォームがほしい



出典：国土交通省「まちづくりのデジタル・トランスフォーメーション実現ビジョン」

まちづくりGXの推進 市民意見

- ゼロカーボンシティを目指すまちになってほしい
- 環境にやさしいまちになってほしい

【都市構造の変革】



【街区単位での取組み】



【都市における緑とオープンスペースの展開】



出典：国土交通省「都市行政におけるカーボンニュートラルに向けた取組事例集」

コンパクトで安全なまちづくりの推進

市民意見

- 行政による居住誘導が必要

【居住誘導のイメージ】



出典：長崎市「立地適正化計画」

だれもが住まいを探しやすい仕組みを構築

市民意見

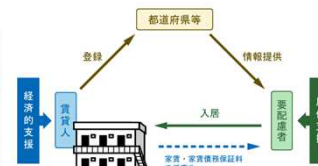
- ライフステージに応じて住まいを選択できる仕組みを構築してほしい

【長崎市空き家・空き地情報バンク】



出典：長崎市

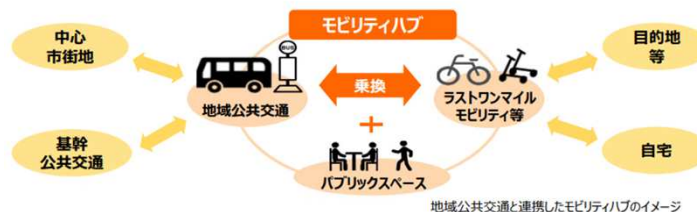
【住宅セーフティネット制度】



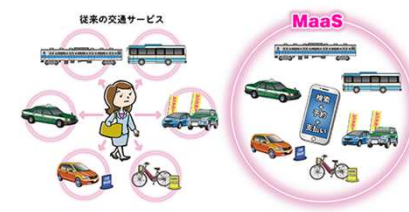
出典：（一社）すまいづくりまちづくりセンター連合会

様々な移動手段をシームレスにつなぐ 市民意見

- 長崎駅から二次交通の乗継環境を改善してほしい
- 公共交通の利用案内を外国人の方も含め、だれもが分かりやすい表示にすべき



出典：国土交通省「第2回施設デザインWG事務局資料」



出典：内閣府「政府広報オンライン」

Chapter 5 策定経過

この章では、ランドデザインの策定経過をご説明します。

Ch.1
長崎まちづくりの
ランドデザイン
2050につ
いて（補足）

Ch.2
現状整理

Ch.3
長崎市のまちの可能性と
まちづくりの考え方

Ch.4
みらいの長崎に向けたま
ちづくり

Ch.5
策定経過

Ch.6
用語集

Ch.1	長崎まちづくりのگران ドデザイン2050につ いて（補足）
Ch.2	現状整理
Ch.3	長崎市のまちの可能性と まちづくりの考え方
Ch.4	みらいの長崎に向けたま ちづくり
Ch.5	策定経過
Ch.6	用語集

- 検討委員会や市民との意見交換会の開催状況、市議会における説明状況などを時系列で掲載予定です。

Chapter 6 用語集

Ch.1	長崎まちづくりのガイドライン2050について（補足）
Ch.2	現状整理
Ch.3	長崎市のまちの可能性とまちづくりの考え方
Ch.4	みらいの長崎に向けたまちづくり
Ch.5	策定経過
Ch.6	用語集

Ch.1	長崎まちづくりのグランドデザイン2050について（補足）
Ch.2	現状整理
Ch.3	長崎市のまちの可能性とまちづくりの考え方
Ch.4	みらいの長崎に向けたまちづくり
Ch.5	策定経過
Ch.6	用語集

- 本編及び参考資料中で使用している専門用語等を説明する用語集を掲載予定です。